

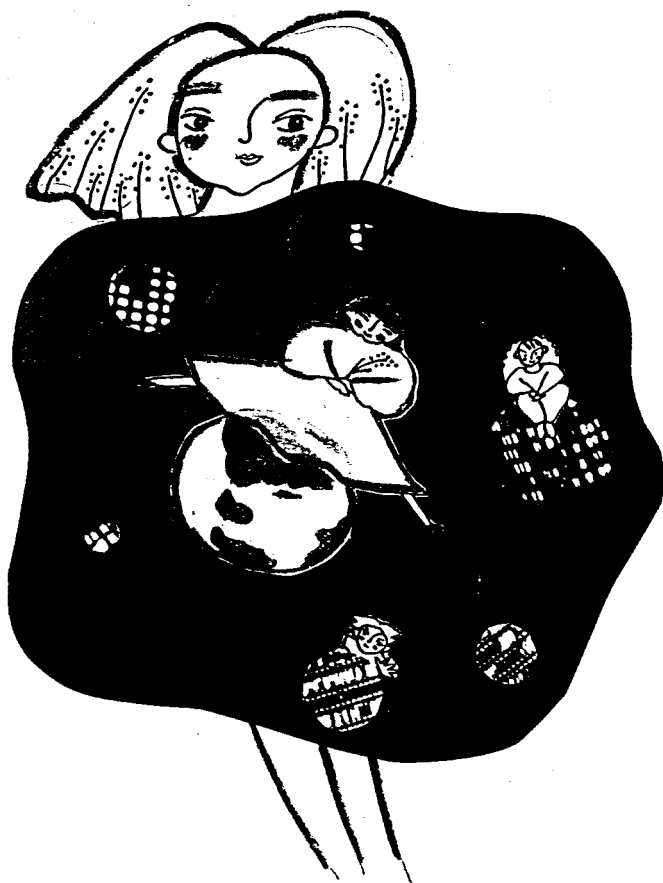


今月の編集は〈あごら新宿〉 148号 400円

90年代わたしは

しまようこ/井田恵子/金森トシエ/大西淑子/倉元正子 藤谷不三枝/矢作滋子/清水澄子/小林カッ代/布施優子 ……	3
井上輝子/片岡悦子/山下智恵子 わたしの年頭メッセージ 近藤悠子ほか ……	17
年賀状から ……	26
上野千鶴子VS 曾野綾子を読む ……………〈あごらさっぽろ〉 谷 百合子 ……	39
海外通信 ……	42
あごら文庫ネットワーク ……	44
あごらのあごら ……	46
女のつどい ……	2

表紙・野原まさ子



女の講座・女のついで

日 時	テ ー マ ・ 主 催 者	会 場 ・ 連 絡 先
1月12日 (金) 18:15	女が政治の主役となる日 △女が政治の主役となる日集会実行委V	日仏会館ホール 03-2227-2837
1月20日 (土) 13:00-20:00	東欧を激変させた女たちとの歴史的な出会い!! シンポジウム「東欧の民主化と女たち」 △東欧の民主化と女たちシンポジウム実行委V	スパイラルホール 3F 03-2322-8460
1月20日 (土) 14:00	ストッパ改悪!! 優生保護法 中絶できる時期の短縮ー私からだは誰のものー 講演: 宮淑子ほか △89中絶できる時期の「短縮」に反対する女たちの会V 政治参加を考えるついで 「今、市川房枝さんが語りたいことは」講演: 紀平悌子 △日本婦人有権者同盟V	早稲田奉仕園セミナーハウス 03-2205-5411
1月26日 (金) 18:20	山川菊栄と現代II 母性と性を見つめて。 講師: 永畑道子 △山川菊栄生誕百年を記念する会V	安田生命ホール 03-370-2727
1月27日 (土) 13:30-16:30	「アブナイ生殖革命・技術の進歩と女の選択」 毛利子来・青木やよひ・ヤンソン由美子ほか △「人権と性」公開シンポジウム実行委V	セントラルプラザ12F 中央労政事務所 03-816-5075
1月29日 (月) 18:30	「花の乱」新評論提示 ささまざまな角度から天皇制をとらえるII 天皇制について語るーマラソントーク・ミニコンサートなど △天皇制・おんな塾V	家の光会館 03-985-3308
1月31日 (水) 13:00-15:00	新しいヒロインたちの誕生 「TOMORROW明日」 △江の島映像フォーラム実行委V	東京地裁619号法廷 0424-64-6029 (片岡)
2月11日 (日) 13:00-17:00		江東区総合区民センター16F 03-6686-5805 (野村方)
2月17日 (土) 14:00-16:15		小田原中央公民館 0465-35-5300

フェミニズムの、みぞ落ちを突つく

東京 しまようこ

わたしたちが手に入れて来た地道な、貴重な血の滲むフェミニスト運動の成果は、誤解を恐れずに言えば俗なる成果です。権力の座に居すわり、北に立って南が見えない男類の俗性に挑戦するフェミニズムが、俗でないなどと言ったら論理矛盾ですもの。しかし生身で現実を生きる女たちにとって、俗なる成果こそが日々を一步ずつ生きやすくしつつあることも確かです。

にもかかわらずわたしは今、そのことに熱狂できない。ハあごろVはフェミニストたちに支えられる立場ですから、口に出しにくいことを言ってみる努力をしたいと思ひ立ちました。

21世紀は予測不可能な百年になるでしょう（臓器が盗まれる時代になるかもしれない）。

バラ色の夢など描けないけれど、絶望的になる条件が身に迫っているとも言えません（迫っていたとしても俗人のわたしには見えにくい）。90年代はそれゆえに、冷静になれる予兆の時代です。俗なる運動にこれまでどおり手を抜かず、ハ俗Vの意味を洗い直してみたい。

言うまでもなくフェミニズムは、目的ではなく手段です。手段をひとつひとつ選んでいくところに女たちの運動の意味があると思うのです。その選び方にハ女Vという共通項だけでなくハエーシングVを加えた（年老いること、という日本語とは一味違うのでカタカナのまま使います）。ハ女Vでくくると対概念としてハ男Vが対置され、異なるものを排除するしくみを許してしまいがちです。ハエーシングVは連続概念なので二分法には馴みません。ハ性VとハエーシングVの二つの柱を交差させると、ハ男Vは排除概念でなく交差点で出会ったりすれ違ったりする新しい類概念として対することができるともいれませんが（安直に、男と手を結ぼうなんて言っていないですよ）。

今、ほんの少しこれまでと違うフェミニズムの感覚の入り口に立っています。熱していない感覚をことばの論理で表現しようと無理しているみたいですね。決してお別れなどできないわたしの皮膚そのもののようなフェミニズム、でもそこに安住できないのがわたしの90年代の始まりです。

冷静になれる世紀末、その安心感に支えられて、わたしはとてつもない迷路をくぐり、俗に安住しがちなフェミニズムのみぞ落ちのあたりを突ついてみたい。突つき方のアイデアに気づいたら教えて下さいませんか。俗なるハあごろVへ、愛をこめて。

すべての生きものを大切にする政治を

東京 井田 恵子

世界の、日本の、大きな大きな変化の中で新しい年が明けました。おめでとうございます！

ことは、メキシコでの国際婦人年世界会議から十五年、コペンハーゲンの国連婦人の十年中間年会議から十年、ケニヤの同最終年会議から五年になります。この間の女たちの力、大きかったですよね。

差別問題に、平和問題に、環境問題に、天皇問題に、それぞれが、率直に、ものを言ってきました。弱者の立場から具体的に、タブーにも踏み込んで。政治参加も進みました。

そして90年。

ことは、新天皇の即位、大嘗祭などがあります。天皇制の新しい基盤が固められ、これに反比例して、日本の戦争責任がいまに消される危険が濃厚です。

この、日本の壁を、私たち市民が、どれだけ破れるか、主権者としての力が試される年となるでしょう。昨年、11月20日、ニューヨークでの国連総会で、子どもの権利条約が採択されました。この条約は、子どもに人権の尊重の教育を、思想・良心・宗教の自由を、表現・情報の自由を、意見表明権を……保障せよ、とうたっています。未熟な子どもを単に保護するという発想からさらに進めて、子ども自身の人権の確立の必要性を述べています。

このような世界の動向の中で、日本だけが後向きでよいはずはありません。この条約の批准をすすめましょう。もっとも、胎児も子どもの中に入るといふ考えは、女性の、産む・産まないを決定する権利と衝突する場面が出てきますので要注意です。

環境問題も深刻です。レジャー、レジャーと日本中にゴルフ場の建設がすみ、美しい自然が急ピッチで破壊されています。農業による汚染、命の水である地下水の汚濁、森林の伐採……住民は苦しみ、鳥や動物は姿を消しています。

90年代は、地球上のあらゆるところで、人や自然や生きものを大事にする政治を押しすすめなければならぬと思います。ことしからの十年、私も力の限り、自分の心に正直に、ものを言ったり、書いたりして、がんばりたいと思っています。年頭にあたり、△あ△ら△の皆さまのご健勝を、心からお祈りいたします。

(一九九〇年一月三日)

初 笑 い

鎌倉 金森 トシエ

ことしいただいた年賀状の一通に、私は初笑いした。私は八年前まで、約三十年間読売新聞の記者として働いていた。その年賀状の差し出し人は読売の元論説委員で、私が笑ったのは年賀状の印刷文のあとに一行加えられていた添え書き——「建前がいつの間にか現実になり」という言葉であった。

論説委員はオール男性である。しかし一九七五年の国際婦人年以降は、社説にも女性問題をとりあげざるを得なくなり、その担当になったのが彼であった。私はしばしば彼のレクチュア役をつとめ、彼は納得しがたい面持ちでメモをとり、なんとか社説をまとめていた。

ところが一九七九年四月の婦人週間の社説を見て、私はあつと声をあげた。それは彼が独自に書いたものだったが、見出しは「男は仕事、女は家庭の神話を破れ」という、当時の社説としては画期的なものだった。私は彼のもとへ握手をしにいった。彼は照れて「あんたたちがこわいから、社説で婦人問題を扱うときは建て前しか書かないことにしたんだ」といい、私は「あら、社説って全部建前ばかり書くものじゃなかったの」とやり返した。彼は苦笑し、私を打つまねをした。

昨年の夏の選挙の女性躍進に見られる女性の大きな変化が、彼に十年前の二人のやりとりを憶い出させたのだらう。そして、そら、ごらんなさいという思いが、私に初笑いをさせたのだらう。

それにしても、建前が現実になり、といっても部分的に変化するのにさえ十年の歳月がかかったわけである。社会は大きく変わるかに見えて、実はそう変わらない、しかし変わらないかに見えて確実に少しずつ変わっていく——というのが、記者生活三十年の私の思いのひとつである。

昨年は大きな変化のあった年であった。しかし、変わらない部分の克服とあわせて90年代には新しい課題が山積している。期待はするが楽観など到底できない。とはいえ、この秋、私は年金受給者になる。90年代を私はまぎれもなく老人世代の一人として歩きはじめるわけである。

男女の平等を人権の平等のひとつの軸に据えて、後方で、できることをしていきたいと思っている。怒りは静かに持続させる。のが私の生き方で、その性分は一生変わらないだらう。

ただし、これからは、余暇能力の開発につとめて、ゆとりのある暮らしを实践したい。女粗大ゴミになんては申しわけが立たない。

不当解雇無効を勝ち取って

旭川 大西淑子

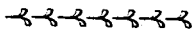
「〈解雇通知書〉 あなたは当社従業員で妻子の有る男性と恋愛（不倫）関係が続けており再三の注意にもかかわらず何ら反省の意志も見受けられず……いくら仕事に支障がなくとも、会社全体の風紀秩序を維持する為、又他の従業員に与える影響も考慮しはじめを付けなければ企業の運営を推進出来ず、解雇せざるをえません……（有） 繁機工設備 代表取締役 大津佐公」

88年4月の不当解雇通告以来、度重なる会社の嫌がらせを蹴っ飛ばし、兵糧攻めの中を無我夢中で闘い続けて一年九か月……。

とうとう昨年暮12月27日、「解雇無効」の旭川地裁仮処分判決を勝ち取りました！ 私側の請求（地位保全と解雇以後の賃金全額仮払い）が全面的に認められた、勝訴判決です！

判決主旨では、「就業規則の懲戒事由である「職場の風紀・秩序を乱した」とは、企業運営に具体的な影響を与えるものに限り」と限定。その上で、「二人の交際が職場の風紀・秩序を乱し、企業運営に具体的な影響を与えたとは認められない」。したがって「本件解雇は懲戒事由に該当する事実があるとはいえないから無効である」としています。企業の労働者に対する懲戒権がある程度制限され、会社側が経営者や従業員の証人を次々と立てて並べ上げたウソ八百が、すべて信用されず退けられたことは、当然とはいえ、画期的なことです。しかしながら、判決主旨の中では、二人の恋愛関係の継続は「特段の事情のない限り妻に対する不法行為となる上、社会的に非難される余地のある行為である」として、就業規則懲戒事由同文中の一部分「素行不良」に「該当しうることは一応否定できない」ともしています。恋愛という個人間の私的事柄に対して、企業が干渉し懲戒の対象としうる余地を条件付ながら残した点は、問題といえます。また、会社が、二人の交際を問題としながらも先んじて女性の側を解雇し、女性を性的な遊びの対象として位置づけ、女性の労働権を軽視して侮辱した背景について、判決分が触れていないのも、残念なことです。

ともあれ、この勝訴の判決の意義は大きく、「ヤッター！」と感激は最高潮です！「社長のおれが首だといったら首だー女の事務員なんか他にいくらでもいる。裁判でも何でも起こして来い！」と豪語していた会社経営者殿に、ひとまずK.Oパンチをお見舞いしたのですから！



社内恋愛で解雇は不当

私みたいな弱い立場の女がここまでやって来れたのも、八重樫弁護士をはじめ、△支える会▽や全国各地のみなさんが暖かく励まし続けて下さったからです。どうもありがとうございます！

今後、会社側の控訴も予想され、まだまだ長く険しい道程です。「裁判は、お金と権力を持たない者にとって本当に厳しい闘いなんだなあ」と身にしみて感じていきます。どうぞこれからも、みなさんのたくましくお力添えをよろしくお願いいたします！

△連絡先▽旭川市1条16丁目右10号 村田方

元OLの訴え認める

「風紀乱したといえず」

旭川地裁判決

【旭川】昨年四月、社内での妻子ある男性との恋愛を理由に解雇されたのは不当として、旭川市内の女性が、勤めていた同市内の水道工事会社を相手取り、地位保全費金の支払いを求める仮処分を申請していた裁判で、旭川地裁・大出晃之裁判長は、二十七日、女性側の請求を全面的に認める判決を言い渡した。

申請していたのは旭川市社の就業規則にある、「素行不良」に該当するのは否定できぬ」としながらも、それを懲戒理由とするには、「会社の運営に具体的な影響を与えるものに限る」と判断。二人の交際が、同社の職場の風紀を乱す、企業運営に影響を与え、同社とは認められない」とし、理由に、同年五月末での解雇通知を受けた。Aさんは、同六月、本来自由である恋愛問題に会社が個人的な論議・道徳観を押し付け、それだけを理由にして解雇するのは不当、として訴え

北海道新聞

を起こした。

これに対し会社側は、再三の注意にもかかわらず二人が社内でも公然と親密な態度を取り続け、風紀を乱したため、解雇は正当だと主張。AさんとBさんが社内恋愛をすること、会社の業務に影響を与えたかどうかが争点になっていた。

判決の言い渡しの後、Aさんは、旭川市内の交際相手十八人と握手、「結婚」として解雇後の判決が出て大変うれし。ここまでで、これからは交際相手のおかけと笑顔で話していた。

一方、会社側の代理人は「判決文を覚えていないので何とも言えない。内容を検討して控訴するつもりだ」といっている。

似たケースでは、福岡市内の元出版女性社員△ミが、社内での不倫のうさで退職を余儀なくされたとして今年八月、元上司と出版社に慰謝料などを求めて福岡地裁に提訴した。現在係争中。

女性差別に触れず
女性解放論、あちら礼儀正しく、高橋芳恵さんとの話。Aさんの主張は一定限度認められたものの「不倫」の立派な女性だ。この判決は、不倫を重く見てい法行為としたことは、会社側の主張を認めたわけで納得できない。恋愛は個人レベルのことで権力が介入すべきではない。また、恋愛の

当事者の二人のうち女性を解雇したのは明らかに女性差別。この点に触れていないのも問題だ。

同じケース他にも
札幌地区労組連中小対策部・三宅正之書記の話。中小企業では、職場内の恋愛やセクシュアル・ハラスメントなどを理由にした解雇は少なくない。大手銀行などの場合、解雇されるのは弱い立場の女性だ。この判決は、不倫を重く見てい法行為としたことは、会社側の主張を認めたわけで納得できない。恋愛は個人レベルのことで権力が介入すべきではない。また、恋愛の

女と地方にこだわって

新潟 倉元 正子

一月一日の地元新聞は、「男性学入門」の特集を組んだ。九〇年代は男の時代とかボーダーレスの時代という文字も見える。

八〇年代は女の時代だったと、何をもって過去形で語ってしまうのか。さっぱり気づかない男性へ、メッセージとしての男性学と思っても、なぜかひっかかる。「女性史? 男性史はないの?」という反問に会った時の、あのユツぽさを思い出してしまふ。真に女の力が問われるのはこれから。女と男の関係も、しっかり向き合っていないと、文字どおり男の時代に回帰してしまうことになりやしないか。

私の八〇年代は、女性史の出版で始まり、二冊目の「雪華の刻をきさむ——新潟近代の女たち」(共著・ユツク舎)で締めくくられた。力をふりしぼって決心した最初の出版で、私は言いしれぬ沢山のことで、勇気を得た。そして、女性センター運動に端を発し、行動計画、女性会議結成へと常に女性問題を追いかけてきた。「国連婦人の十年」の鐘の音が、やっと新潟にも鳴りひびいた時期でもあった。

九〇年代は、待望の女性センター開館によって、新たな動きが転回していくかどうか新潟の女たちは正念場を迎える。当初の理想像からは少しずつずれていくものの、八年にわたる思い入れは軽くない。女の問題をどう深めていくのか、女たちのネットワークと若い力へのバトンタッチまで、しっかり見つけていかねばならない。

何よりも大事な課題は、「新潟女性史年表」を完成させること。生き方を模索しながら、手さぐりで女性史を学び合ってきた仲間たちと、行き着いたところは、いま私たちが生活しているこの地の女の歴史をあきらかにしていくことだった。

人権を認められず、自己主張の場をもたなかった女の姿を求めることは、決して楽な作業ではないけれど、それだからこそ女性史の存在が価値をもつのではないか。おんなとしての自分を精いっぱいわからせながらの女性史や女性学であるはず。女を男に置き換えるには、あまりに想いが深すぎよう。

地域女性史に取り組んで、地方から歴史や社会をみていくことも知った。ボーダーレスの時代だからこそ、地方の目と言いたい。

九〇年代は、女と地方にこだわっていききたいと思う。

不当な差別が、宗教の名によって正当化される。それは、大谷派教団においては、次のように表される。

○女は住職になれない。

〇得度が、男子九歳に対して女二十歳からしかできない。

〇教師習練（教師になる時に受ける研修）のスタッフになつたことがない。（去年三月実現はしたが…）

○お勤めに出仕しても、女は余間（男の後ろ側）にしか座れない。

○葬儀の時、女性が亡くなった場合は、「**変成男子の和讃**」（いったん男に生まれ変わってから成仏するといふもの）を読む。

○教典に五障三従説が説かれている。(五障：女は、帝釈、轉輪聖王、梵天王、魔王、仏になれないという、五つの障りがあるということ。三従：女は、父・夫・息子に従わなければならないということ。)

○女は宗政に参加できない。女は、教師をもっている、選挙権はあるが、被選挙権はない。（地方議会選挙に至っては、選挙権もない！）

○教師の位が、女は最低の「入位」にしかつけない。（上がればいい、という意味ではない）

数えあげたらきりがなく、教団内の女性差別は無数にある。しかもそれらが、「法規総覧」という宗門の法規によって明文化されているというわけだ。これにつけ加え、血統崇拜、世襲制の寺においては特に、後継ぎをつくるためにあり、男を産まなければ、という脅迫観念にかられるということが厳然としてある。

教団、それは社会の縮図。となれば、縁あって、この泥沼のような大谷派教団に身を置くことになってしまった私。ここから逃げることなく、絶え間ない変革を願う「生活者」として生きたいし、自分を最大限にひきだす生き方をしたい。

男って結構、つきあえばつきあうほど底がみえてくるのに気づいた私は、去年、「男を愛するためだけに女は生まれてきたのではありません」(映画「フォーエヴァー・フレンズ」のキャッチフレーズ)の言葉に出合い、これや!と思った。なにせ、男による支配が「愛」でコーティングされているゆえに、気づくのはとても難しい……。

9

<みどり>の思想を自ら実践したい

東京 矢作 滋子

昨年は、国内外とも変動の多い年だった。現代と呼ばれるこの時代が、今までに生み出し、かかえ続けてきた様々な問題が、すでに限界近くまでふくれ上がり、何らかの大きな変革を求めて、動き出している。

一九九〇年代、それは新しい時代の幕開けの時となるのかもしれない。

南北問題、環境・自然破壊、抑圧や差別、人間性の荒廃、そしてこれらの問題を悪化させている経済や社会のシステム。これらを解決し、人類の未来を、一層の悲惨や不幸から希望あるものへと変えていくためには、まだまだ相当な困難と変動を経なければならぬだろう。そしてそれには、政治や経済の改革とともに、私たち一人一人の、意識や行動の変革が必要だろう。

個人、地域、企業、国家等のエゴイズムから脱却した「地域全体の生命システムの中での人類」という、新しい視点と価値観、そしてそれに則した社会の実現が、早急に望まれる。

現実にはエゴイズムは相当根深いし、カネと力が支配する弱肉強食の世の中、皆自分のことだけでも精一杯で、とても人のことなど考えていられない。でも、それだからこそ一人でも多くの人が、新しい視点と理想に目覚め、それに基づいて、悪いものは悪い、ダメなものはダメ、と、はっきり声を上げ行動していかなければならないだろう。

近年世界の各地で、グリーンの運動が広がっている。自然の生態系の素晴らしい調和と多様性に学び、エコロジカルな生活と社会システム、民主主義と非暴力、地球的視野等を運動の基本とするグリーンの思想は、新しい時代を開くための重要な役割を果たすと思われる。

ここ数年、私は日本のグリーンの運動に関わってきた。しかし、日本でのグリーンの運動が大きく広がる出発点となるはずだった昨年の参院選で、私たちみどりといのちのネットワークは、むしろその力を弱めてしまった。そうなった原因の一つに、みどりの運動に携わっている私たち自身が、みどりの思想を十分実践できなかったということがある。

何事も「言うは易し」で、自らがきちんと実践できないようでは机上の空論にすぎない。

私も今年で四十歳。不惑どころか、失敗と反省ばかりだが、人生も折り返し点を過ぎた一九九〇年代、もう一度自分自身の生き方と行動を見つめなおし、問い直していきたい。

女性が政治の場に30%

東京 清水澄子

一九八九年は、まさに劇的というより他ない大きな変化が内外で起こった年であった。

日本の国内では参議院選挙における日本社会党の躍進。広範な人びとが政治不信、弱い者いじめの政治に怒りの声をあげ、それが日本全体を大きく揺さぶった。中でも際立っていたのが、農村青年と女性たちの『反乱』である。そしてついに、参議院での与野党逆転が実現した。

国外ではいうまでもなく、東欧における民主化と政治改革を求めて湧き起こった民衆のうねり。日々、伝えられる情報に圧倒されるほどのおもいで、私たちは時代が大きく動いていくのを実感したのだ。

二つの動きは、それを生み出した歴史的経過や規模など違いはありながら、しかし底流に共通したものを含み、と言って良いのではないだろうか。日本では、民主主義が形骸化し政治は一部の特権階級のためのものとなり、長い自民党の一党支配の中で政治から疎外されてきた人びとが、政治の主体として参加することを求めて動き、自民党に「NO!」をつきつけた。東欧でも、市民の上ののった国家の権威によって成立してきた『社会主義政權』が変わることを迫られたのだ。

新しい民衆が創る政治、文化、秩序（せかい）の胎動がいま始まっている。

そうした時に、女性の自立・平等・平和・人権などの運動にとりくむ女たちにおし上げられ、私は国会で働くことになった。法務と環境の委員会に所属、「入管法」の改正案やアスベスト全廃問題に関して政府を追及したが、いずれの時も、その運動にとりくんでいる市民グループの人たちに、まず集まってもらい、意見を交わしながら、市民の立場で問題を提起し主張する努力を精一杯してきたつもりだ。

長く運動に生きてきた人間として市民や女性たちと深くつながりながら、政治に直接働きかけていけることは喜びであり、また何より、女性が変わらなければ政治は変わらない、と思うのだ。世界的に高めるために様々な努力がされている。

日本でもせめて、『90年代の間に女性が政治の場に三〇%を占めよう』と、具体的に目標を定めて運動をおし進めたい。90年代中に開かれるだろう国際婦人年世界大会に向かって、世界の女たちとともに新たな地平を拓く大きな役割を、私たちも担っていききたいと思うのである。

暮らしをたたみながら

東京 小林 カツ代

「90年代、私は」、ますます元気でありたい。することが山のようにある。ここ何年か、私の内なるところで怒涛のごとく波打っているものがある。

日本の女の生き方の変化にともなつて、私自身、体に心に頭に、はりついていったものがはらはらと落ちていき、脱皮していった。しかし脱皮は闘いの始まり。時代が、女性が、大きいうねりと共に変わっていったその時を生きた面白さは実感する。が、まだ完全に脱皮——自由——をかり得てはいないことへの葛藤、これを見ずえることも私にとっての個人的な90年代である。

さて、具体的に「90年代、私は」

一、日本在住の中国残留孤児の人たちに、私がなすべきことはないかと。同世代の私は、あの時代、少なくとも両親の温かい腕の中にいたのだから。日本政府の冷たさに憤りを覚える、もの申す。

二、英語しゃべるぞー正確にはしゃべるようになるぞという願望。目下も習っているがペラペラには程遠いくやしいけど英語は今や国際語。戦争を絶対したくないから、殺し合いをしたくないから、もっと深いところで同じ人間として他国の人々と存分に語り合いたいのだ。次代の子らのために、急ぐ。

三、子離れの時がくる。現在、高三高二の娘と息子との別れの日も近い。彼らはまぎれもなく飛び立っていくだろう。恋人か友人か仕事か旅か。それは知らない。いずれ母よりもっと愛するものが出来ることは確かだろうから。情けないけど少しはつらいのだ。しかしどっこいこっちだって負けてはいない。飛行機ぎらいの空飛ぶ料理研究家は国の内外かけずり回っていて多分忙しい。

四、暮らしをたたんでいく——心に頭にはりついていたものを落とし、自由に生きる精神にはシンプルな暮らしこそが似つかわしい。ひとつずつ心の衣をはいでいったように、こんどは少しずつモノと訣別していく、暮らしをたたんでいく。90年代の終わりに、犬とネコたちと、うまく続けば夫と、それから先、生きていくに必要なだけのモノさえあれば。

五、今の日本、おかしいぞ、と思っている人たちとのネットワークを作る。これまで、多くの先行く人たちが女の歴史を苦難の中で変えてくれた。次は、私たちが変えていく。

だから、「90年代、私は」、せひとも元気でないと困る。こんなに沢山することがあるのだもの。

多者沢多の社会を

東京 布施 優子

昨年末、80年代最後の私の大きな仕事は、日本で初めての「凍結受精卵」による赤ちゃん誕生のニュースでした。クリスマスのこの日、生れたのは双子の女の赤ちゃん。おしかけた私たち報道陣に、当事者のお母さんらへの直接の取材は許されませんでした。私は医師団の記者会見の内容を頼りに、舞台となった千葉県の病院から生中継でこのニュースを伝えました。

そして、90年代の初仕事は、赤ちゃんの誕生が、また最低記録を更新したというニュース。昨年一年間に生まれた赤ちゃんは百二十四万三千人で前年に比べて約七万人も少なくなったというのです。この原稿は、元旦の朝のニュースでオンエアされました。（実は原稿は年末に書いておいたものですが）

不妊に悩み、凍結させた受精卵を体に戻すという方法でやっと子供ができた女性がいる一方で、子供を産む女性の数はどんどん減っているのです。晩婚、非婚。仕事と子育ての両立が困難、子育てはお金がかかり経済的に余裕がない、住宅事情が悪い：理由はたくさんあります。女性たちが、「女は結婚して子供を産むのが当り前、それが女の幸せ」という伝統的な価値観に対し、疑問を持ち始めた結果とみることもできます。

しかし、子供は欲しい、でもまだ作れない：と言う女性が多いのが気になります。家庭を持ったら子供を作るのが自然だと思えるからです。同時に、社会に出て仕事をしたり、いろいろな活動をするのも自然なことです。両方とも人間として自然なことなのに、今の日本の社会は、極めて不自然な生き方を人間に強いいてると思います。仕事をとるなら、自分のキャパシティのほとんどを仕事（というより「会社」）につぎこまなくてはならない。子供（というか「自分自身」）をとる場合は社会的なキャリアはあきらめなくてはならない場合が多い。二者択一ではなく、いろいろな生き方が可能な、柔らかな社会をつくっていかなくてはと思います。

さらにもう一つ。凍結受精卵による双子の赤ちゃんを産んだお母さんは決して私たちマスコミの前に姿を見せようとはしませんでした。でも、このお母さんと子供たちが、もし実名でマスコミの取材に応じてくれたとしても、特別視されることなく、温かく見守っていきけるような世の中であってほしいのです。

多様な価値観を認めあい、女も男も、誰にも何にも強制されることなく、等身大の「自分自身」で生きられる、そんな社会をつくるために、微力であっても、90年代もこの報道の仕事を続けていきたいと思っています。

女性学のさらなる発展をめざして

川崎 井上 輝子

80年代までが、日本における女性学の揺籃期だったとすれば、90年代は、女性学の発展期である。学問としての内実を進化させ、豊穡化させる一方で、教育や行政や運動の場で、女性学を積極的に活かしていくべき段階である。

内容的には、さしあたり次の二つの事柄が必要だと思われる。一つは、言うまでもないことだが、各専門分野の研究を蓄積することである。総論的な提言ではなく、各論レベルでの研究の充実が90年代には不可欠である。その際、伝統にとらわれない、大胆な仮設と方法の模索とが必要だと思われる。私自身は、「女性とメディア」研究の中でも、とくに、性差別的な文化と社会構造との関係、およびメディアが女性の自我形成に及ぼす影響について探究を一步進めたいと考えている。こうした作業を積み重ねた上で、各論レベルでの女性学の研究成果を整理して、女性をとりまく諸問題の相互関連を明らかにすることも必要となるだろう。第二の課題は、新たな問題状況に対応した、女性学の新たな概念枠組の構築である。「国連婦人の十年」以来、主として性別役割分業の見直しに政府や自治体がとりくんできたこともあって、少なくとも男女の持ち物の流動化という点では、一定の成果があがってきた。そして、この点での女性学の果たした役割は大きいものがあったと考えられる。

だが、80年代末以来、日本でもセクシャル・ハラスメントや、マスメディアにおける「性の尊厳」の侵害などの問題が顕在化してきた。これらの問題に対して女性学は、有効な武器をどれだけ提供できたであろうか。「性役割」概念の拡大ないし、新たな分析用具が必要とされる所以である。また、資本と労働力の多国籍化状況や均等法以後の女性労働者の二極分化状況の中で、女性の抑圧も重層化してきている。民族や階級の軸を考慮に入れた、新たな理論枠組が必要となっている。

さらに90年代には、女性学の成果を現実社会にいかにか適用していくかという課題も、今まで以上に大きく浮上してくるだろう。女性学の研究と実践との関係が、改めて問われることになるだろう。学校教育や社会教育の場で、男女平等をどう教えるのかという問題は、焦眉の課題である。そのためのプログラムを作成することは、女性学の急務となっている。政府や自治体行政において進行しつつある男女平等（ないし共同）社会建設のための、主体的施策の策定と実施とに、女性学はどの程度寄与すべきか、またできるのかという

わたしもませて！

東京 片岡悦子

問題もある。女性解放をめざす、諸運動団体との関係もある。

このように、90年代に女性学が担うべき役割と責任は大きい。私も女性学研究に従事する一人として、こうした役割と責任を引き受けていきたいと考える。

とはいえ、女性学研究者も生身の人間である。一人一人の身体は、時間的制約の中で、できることには限りがある。私自身をとってみても、研究活動と教育活動とさらに行政等へのかかわりとの調整に、いつも四苦八苦しているのが実情である。実際にしなければならぬことやしたいことと、実際にできることとの間に、大きな量的ギャップがあり、これが悩みの種となっている。私の場合、90年代には子どもたちが大きくなる代わりに、私自身が年をとり、体力に不安を感じ始めている。女性学にとって、また私にとって、今、何がもっとも大切で何は後回しにしてよいのか、それを仕分けることが、実は90年代の私にとって、もっとも必要なことかもしれない。



女の情報の入った手帳は女の手でつくるしかないと始めたのが十年前。手帳づくりは企画から販売までのフルコースメニューである。つくるのは女たちであっても、販売先の責任者はほとんど男だった。いやでも男社会の価値基準という名のフィルターを通さなければ、店に並べてもらえないし、宣伝もしてくれない。良い物をつくれれば欲しい人は求めてくると言うが、届かぬ情報の存在の内容をどうやって知ることができるだろう。

同じ状況にあるのが、各地の女たちのつくっている著書やミニコミである。ミニコミ紙に関して言えば、発行部数七万が一位二位を競う数量とは比較にならない悲しい現実がある。著書についてはおして知るべしである。売れない物は宣伝までケチられる。すると目につかない、知られない、売れないの悪循環になる。これではいけない、男の価値観の入らない女の情報ルートづくりが必要なのだ。読者はハあこらVが始めているじゃない、それにあそこもこもと思ひ並べるだろう。たくさんあったほうがいいのです。男がつくるような中央集権的な巨大なルートの「一本化」は危険である。

90年代は雑草のようにしぶとく、したたかな女の文化情報ルートづくりをめざして行く。

もっと自由に

名古屋 山下 智恵子

今年、私は五十一歳になります。仕事のことについて書けば、まず目下、取材中の女義太夫、豊竹呂昇（名古屋出身）についての百二十枚ほどの原稿を完結させねばなりません。去年の春、新聞社から話があったのに、いつもの遅筆で90年にのびてしまっています。

五十歳をすぎて、やっと自分がほんとうに書きたい小説の輪郭が、ぼんやりとですがわかってきたように思います。ただ、それを実際に作品にするためには、もっと自由になる必要があります。精神的にも、物理的にも。

四人の娘たちも、半分は自立します。長女は公務員の仕事をしながら、お金をため東京の大学の大学院へ入学する準備をしています。彼女が、自分の人生を、悔いのすくないものになりたい、と目的意識をもって努力する姿を見せてくれるので、私にも良い刺激剤となります。次女も、東京でこの春、就職しルームメイトと暮らそうと下宿探しをしています。三女は北海道であと三年間の大学生活。四女は高校だけでいい、などといったアルバイトにはげんでいます。

それぞれ、女が生きていく上でのさまざまな困難や問題にぶつかるところですが、その時は一緒に悩んだりはげましたり、はげまされたりしたいと思っています。

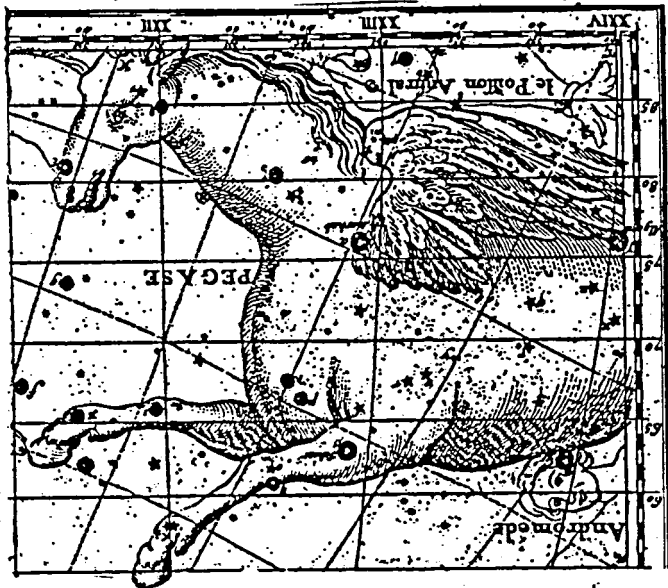
さて、私のもっとも切実でかつむずかしい90年代の課題は中小企業を経営する夫との関係でしょう。これをクリアしなければ、ほんとうに私の書きたいものを、書くことができないような気がしています。

自分の心にできるだけ素直に、シンプルな生活がしたいと、心から願っています。そのために、勇気と決断力、経済力、体力などをたくわえたいものです。

狭心症と腎臓結石の持病とも、できるだけ上手に折りあいをつけて、生きてゆかれたらいい、と思っています。ります。

女たちが、一人だろが、結婚しようが、離婚しようが、とにかく自分らしく、納得のゆく生きかたで、無理なく生きてゆかれる世の中にしてゆきたいものです。

A HAPPY NEW YEAR 1990



■年頭のこあいさつ

おけきして
おめでうにいけんまつ

早いもので事務所の開設から今年は一五周年を迎えます。

女性の時代といわれる新しい時代の波は、確実に世の中を、人権と平和をたいせつにする方向へ大きく変えつつあります。

昨年、ドイツの東西を隔てていた壁がとりはらわれたことを、私たちは、どんなに大きな喜びをもってうけとめたことでしょうか。

人の心がつくり出した「人間の壁」を私たちの手で打ち壊すことが、ほんとうに可能になってきたのだ、との思いでながめる「未来」は、希望を抱くことのできる「未来」なのだと思います。

今年にはじまる「未来」を、女と男を隔てている「みえない人間の壁」を、女と男の共同作業でとりはらっていく時代にしていきたいもの、切に願わずにはいられません。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

婦人協同法律事務所
所員一同

馬 扉を開く



世界が動いていることと
日本の新しい政治の扉を開く
こと。

一九九〇年元旦

土井たか子

〒650 西宮市津門新町十一の二 エアビル二〇六号
〒100 東京都千代田区水田町二の一の二
衆議院第二議員会館三〇号室

新年おめでとうございます

昨年夏の参院選では、大変お世話になりました。
あれから五ヶ月、選挙公約の実行にむけてひたすら走っております。
熊本県民、そして全国の先輩同志のお力で、ふるさとで市川房枝先生の
御遺志を継ぎ、婦人参政権、そして理想選挙の目的である福祉と平
和の政治を築く一里塚に立だして頂きました。
政治浄化をはじめ、公平な税制を確立し、農林、水産業を維持発展さ
せ、自然を守る政策の実現に全力を傾けます。
何卒、変らぬ御支えとご指導をお願い致します。

一九九〇年一月

〒114 柏江市中和泉一二十一七(自宅)

紀平 悌子

国会事務所 電話 〇三(四八〇)五八四一
〒100 参議院議員会館三〇二一
電話五八一三二一 内線五〇二・六三〇二
〇三(五〇八)八三〇二(直通)
FAX 〇三(五〇二)八八四六

あけましておめでとうございます

時の刻むのを確かめるとまもなく一年が過ぎてしまいました。
みなさまのあたたかいお励ましとお力ぞえに支えられながら国会議員
としての新しい人生をようやく歩み始めることが出来ました。
めぐり合いのすばらしさを改めてかみしめています。
心から御礼を申し上げます。
参議院では社会労働委員会、国民生活に関する調査会に所属し、本
当に長生させて頂いたと思える社会の実現をめざして努力してま
いりたいと存じます。
今後ともどうぞよろしく御指導のほどお願い申し上げます。

一九九〇年元旦

〒114 横浜市保土谷区牛岡町三の三八一
〒100 東京都港区三田二一四一十八八〇二

本日もよろしくお願い。
土井たか子

日下部 禧代子

あけまして
おめでとう
一九九〇年元旦

ヨーロッパの人たちのように、もつと
私たちが声を強く、確に。かんぱ
つ、ま、りましよ。

婦人民主クラブ

近藤 悦子

一同

1987・3・30 新評論に入社
 1987・10・1 藤原編集長より即日解雇の申し渡り
 1987・11・16 出版労連東京出版合同労組に加盟、出版社を結集
 1988・4・1 就労拒否される
 1988・4・26 東京地裁に地位保全の仮処分申請
 1988・12・6 原職復帰を求め、民事訴訟を起す
 1989・10・3 第4回口頭弁論 藤原氏ら5名を証人として申請
 1990・1・31 第5回口頭弁論 原告(片岡陽子)への主尋問
 私が石井弁護士の質問に答えて二時間証言します。是非傍聴して下さい。

これとは別に
 1988・10・2 新評論を労基法違反で告訴(刑事訴訟)吉野検察官担当
 1989・9・5 新評論の社会保険法違反の調査依頼 秋山調査官担当
 一言でいえば「片手に裁判、片手でバット」の一年。検察庁と社会保険事務所へも赴きましたが、まだ時間はあり、武蔵野の自然を楽しみ、キルトを縫いました。「れ、ふ、む」2枚と「片手に裁判、片手にキルト」を書いていました。

12・6 検察庁より不起訴通知 怒り心頭!!!
 11・26 朝日新聞、藤原氏 新評論を退社、たった一人の出版社設立と報道

ありがとうございます

年の初めにあらためて御高恩に感謝申し上げます
 この年の御清祥を祈り上げつつ
 新年の御祝詞を申し上げます。

激動の'90年、私どももお蔭様で26歳に。
 女性の花ひらく年。それだけに波も高い年。
 風雲の中にも私どもなりの
 小さな花を咲かせたいと願っております。
 ことしもよろしくお導きくださいませ。

あけましておめでとうございます



1990.1.1

“あじろ”は女たちにむかって、
 自ら射たメッセーじを放って
 おられますといたします。

★日本の中のこと、みんなが知っているつもりでも、実は知らないことが一杯ある。★沖縄は日本だけれど、ちよと違うと思つてゐる人がたくさん。★ベルリンの出来事は日々光明に伝えられたのに、沖縄のデモなど何も聞かされてない。日本の中のことなのに。★みんな考えて決められなければいけないとか、いつの間にか政治屋の都合のいいようになる。★用メシアの怖さは音と変わらない。★世界の動きに背を向けて、軍備増強、天皇制による国粋主義の押しつけに邁進する大和のセイガ。★その一番の犠牲者は沖縄、そして狭い一本道を歩かされる子供たち。★日本中の「良心」が声を挙げたら、富士の山も動くのかしら？

一九九〇年 元旦

ー 凡人のつぶやき ー 高宮弘子

浸透する心に



式器はいつたいい。

謹くめく新くまじり

エフ・エス・ミズグハムおめどつ

「旅樂まのう。いろはにほへと 夢うつつ、
ニテシユ。ありや 軸を廻りて 今宵 船
必 球 号、万 物、人 類、乗 せ て 四 十 二 億 年
天 に ち る ま す 我 等 の 父 母、母 子 大 地
は ず へ つ を 生 み、す べ つ を 育 め、す べ つ の
天 を 抱 く 地 球 星、也 乎 う か に ー」

一 筆 筆 上

火（生命の灯）の同位 平成二年 元旦

子子花かすて

祖野肥やせ

安東純子

マリン・東・南米等々
あわなだいいちはふにとこ
やい 追客えが
いの あけくたに
“あじ” 年生ど
まどまど 夜も来も
あじあ山
Okugawa
義成
元旦
どとやつの内藤の
やく第二のFest
見つかりました。あじ
れの自由業にも近く あじ
とも笑存でまきはがです。
今年はいまおでグズグズ ためこはは
りて板の上に有るエネルギーを開放す

謹賀賀新年

旧年中はいろいろお世話になり、誠に有難うございました。
私どもでは、昨年十月に新しい家が完成し、カサ・デ・ラ・
ムジカと名付けました。滅炎の治療室や音楽の小さいスタジオ
もございすので、ご利用いただけたらと思います。今年もフ
ランス分室をも含めて、何卒お引立て下さるようお願い申し上
げます。

皆様のご健康、ご発展をお祈り申し上げます。

一九九〇年元旦

(有) 田代総合文化研究所

カサ・デ・ラ・ムジカ B・1 田代信子
カサ・デ・ラ・ムジカ B・B 田代夏子
フランス分室（在パリ） 田代優子

華名 飛幡祐規

〒154 東京都世田谷区梅丘二・二三・三三
TEL (四二八) 五九六三 FAX (四二八) 五七九四

かきこ

「お母は
平凡な女性
と仏教」シリーズ
「叔いと教えの
一部を執筆



浅野美和子

(2)

北馬夫を翔く時
自由の風吹く

今年四月「現代のエスプリ」
に「民衆宗教思想の作の
両性具有観」が載る予定
です

庚午
1990

「へえ、まだ共修運動やっているの？」
なんておっしゃらないでください。
男や別のは洞白をやらうという動きもあるし、
「家庭科」という名目で他の内容をやるい
とっている男子校もあるのですから。
全国の中・高・高校で共修が完全に実現するま
ども共修運動にご協力ください。

家庭科の田村共修をすすめる会

梶谷典子

新年画謹



旧年中はいろいろお世話をになりました。今年もどうぞよろしく。
おかげで、イラストの本が2冊になりました。
機会がありましたら、どうぞ手に取って読んで下さい。

・For Beginner's 「性」 鈴木みづ子・文 現代書館
・「お買い得書」 女の時代小説 原田静枝著 学陽書房

「お買い得書」 女の時代小説 原田静枝著 学陽書房
「WIFE」イラストも手がけています。おもしろい本です。三鷹市図書館には
蔵書があります。(03-240-4471)まで。

田井亮子

仕事場：〒185 国分寺市東元町 1-34-11 エのミ荘8号
0423(24)6054

実家：〒181 三鷹市上連雀 4-20-16
0422(44)5746

封書

地球号の東組員のすべて

いきいきと生きられよう

それぞれの持ち場で

力を出し合いましよう

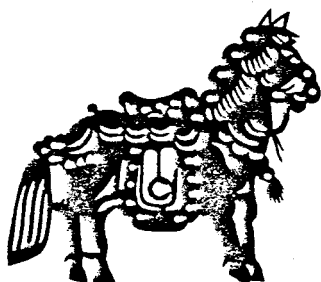
山下智恵子

1990. 1. 1.

頌 春 1990

90年代の新しい夜明けです
 人々が地球的にものを
 考えようとしはじめました
 美しい空と海 おいしい水を
 とりかえし人間らしい暖かい社会を
 つくるために手をつなぎましょう
 子どもたちの未来のために
 反戦反核反原発の草の根運動をつづけます

飯田しづえ



A HAPPY NEW YEAR

大橋 倫子



益々平和な年で

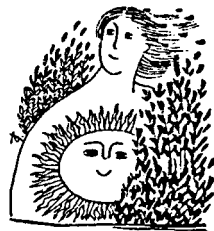
ありますよう

恩納村自治会

迎 春

輝かしい新春を迎え
 謹んで皆様のご健康と
 ご多幸をお祈り申し上げます。

元旦



太田堂 徳島市治療院

徳島市南矢三町2丁目8の8

TEL 0886-31-5750

森 弘子

謹賀新年

激動といふ言葉が

すきに突感ふ。一九八〇年代か終り。

新長江一九九〇年代之迎之

万感の思に、期待と祈りをこめて

初春の作挨拶を申し上げます

一九九十年一月元旦

新年は五日より営業いたします。

鬼女の栖

あけまして
おめでとうござります



被過ス。了貴
き。イした出
たに。しまをた
たーダし」し
いギンをしま
をルヲ旅分し
助べ。い自し
援。深「果た。年し
ごに。出。使。し。木。過
の共。加。い。し。に
方と。参。想。念。を。き。糧。か
様。ち。に。と。配。用。を。た
皆。た。勤。ス。を。費。が。験。心
年。の。方。連。シ。オ。の。験。体。心
昨。者。平。フ。五。た。な。こ。み
爆。間。る。重。動。す。
本。い。年。げ。上。す。
も。し。指。導。を。賜。わ。り。ま。す。よ。う。に。お。願
い。な。い。に。始。め。に。平。素。の。ご。厚。意。に。感。謝。申。し。ま
す。皆。様。の。ご。健。康。を。お。祈。り。い。た。し。ま

1990. 1. 1

澤田和子

自宅 大阪市東淀川区東浪路1-5-2-443
TEL 06 (329) 3 3 6 4
会社 大阪市東淀川区東浪路3-4-18
TEL 06 (322) 2 2 0 3
FAX 06 (320) 3 4 1 3
(有限会社 芳泉 企画)

HAPPY NEW YEAR!

FROM ■かわさき・まさこ

〒162 東京都新宿区早稲田町巻町530 ワセダ
バーディ302 TEL/FAX03-202-90
85 (ビジネス雑誌エディター兼自営アーティスト/
サイバー・クリエイター/デジタル・ウーマン)??

■ついに90年になってしまいましたねえ。じつは昨年
末から引きずっているアンハッピーな気分のせいで、
あまり元気じゃないのですが、どうにか頑張りたいと
思います。■で、今年は趣味(?)で撮っている写真
の写真をやりたいと思っています…と、宣言したら
やらなきゃいけない…皆さまもいらしてください
ね。そのときは告知をあごらに載せてもらおうと。
■昨年やっと自転車に初挑戦し乗れるようになりました。
もっと暖かくなったら、完全にマスターして原付
きに挑戦するぞ。■ニュービジネス・新商品・トレンド
情報などの雑誌、月刊「ペンチャー・リンク」では、
随時、フリーのライター、フォトグラファー、イラスト
レーターなどを募集しています。求めるのは「おじ
さん」にはない時代感覚と元気です。ご連絡ください。
(ペンチャー・リンク編集部 かわさき03-66
2-7965) ■それでは皆さんよいお年を

元回



真田幸三

金部

墨のいろ
花の色 甲子路半ば
乃

いろもも月

一九九〇年元旦

若く日の夢をまごころめす

めはにまの髪に霜降りる

還暦の春

庚子元旦

東京運命学研究会

榎 玉 淑

〒103 東京都中央区日本橋堀留町一六三

パレドール日本橋四二五号
〇三ー六六ー一九一三七

새해를 맞이하여
축하의 인사를
드립니다

先生の「ニクソ」像と

朝日親善の更なる発展を

お祈り申し上げます

一月一日

謹く新春を

お慶び申し上げます

昨よりはいら〜お世話になりました
本年もどうかよろしくお祈りいたします

一九九〇年元旦

〒558 大阪市住吉区万代四丁目一ニ一三二

大阪戦災傷害者・遺族の会

代表者 伊 賀 孝 子

電話 大阪 06 六七二一三六七



迎春

1990.1.1

昨年12月に土地基本法が成立しました。国が公に「土地を模範の対象とはならない」と認めたことは一歩前進です。しかしこれは単に宣言だけの法律ですから、下手をすると土地は一層持てる者に集中して、庶民の住宅は更に手の届かない所に行く恐れがあります。

そこで私たちは今は「住宅基本法」を制定する運動を起こしました。「土地・住宅基本法を制定する市民フォーラム」がその中心で、私も事務局に入っています。

総選挙までの短期決戦

ですからどうぞ支援の程を

事務局の電話は

354-8781です

〒169 新宿区高田馬場4-18-6
TEL (364) 1247

小野紀美子

日本中で住宅一攫が起ることと期待してはいるのですが
今年もお元気で!

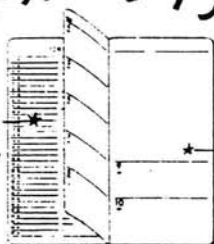
うな 自民党が大敗すると日本が少くはすくなくともいえるが

シエイ・オー・ダイアリー

メモらんが
ワイドになった
月スケジュール

使いやすさで
うけている
週スケジュール

850円
+送料250円



★2歩はコレ!

女性著書の
ブックリスト
を発行予定。
本の紹介を
手伝ってこれる
スタッフを
募集
しています。
行な

03-269-7650

ミス・データ・バンク

〒162 東京都新宿区神楽坂6-38中島ビル505

FAXも同じ



迎春 - 1990 -

☆ 東海BOCのフリーライター養成
セミナーのオ1期生 堀久美子さんは
その後、タウン誌「西美濃わが街」の
編集長に昇格。

このたび、NTT全国タウン誌フェ
スティバルで 県内はじめての奨励
賞を受賞。

☆ — 東海BOCセミナーははたらく —

連続セミナーは 堂本暁子さんの
講演「働く女性たちの応援歌」も
含めて大成功しました。

はたらく女性たちのネットワーク

名古屋市中区栄三丁目28-2 TEL 052

東海BOC 251-9064

迎春

激動の90年代に入りました
ここにもあそこにもわたりの花ひらく年
安保に代わる平和友好条約の結ばれる年に
と折っております

一九九〇年元旦

〒160 東京都新宿区新宿一・九・六
03-3354-3941 FAX 354-9014

あ
ご
ら

春頌



（年賀状から）

今年もたくさんのお賀状を頂き、ありがとうございました。

九〇年の私たちの思いの一端として、そのほんの一部ですが、誌上でご紹介します。事務局だけで拝見するのはもったいないので…。

（順序は全く不同です）

◆いよいよ一九九〇年となり、二十一世紀を展望する時代となりました。そのせいか昨年は天安門事件や、ベルリンの壁が壊れたり、民衆パワーで歴史が変わる感慨深い年でした。

一昨年度の私の個展の旅行記、「戦争責任を訴えるひとり旅、ロンドン・ベル

リン・ニューヨーク」（岩波ブックレット）が出版されました。昨年の十二月には従軍慰安婦をテーマにしたスライド「海の記憶」（絵・富山妙子、音楽・高橋悠治）を、はじめてアジアの地タイで上映いたしました。

こうして自作をもち、いろんな土地を旅して、さまざまな人びとに出会っているうちに、これからは、吟遊詩人「ならぬ・吟遊画家」になろうかと思いはじめました。

（東京・富山妙子）

◆一昨年は、事務所を閉鎖し、胃かいようをわずらい、心身共に少々疲れた年でありましたが、昨年はなんと二度も引越す元気が出て、サンデー毎日の「優しすぎる男たちへ」、小説新潮の「シングル・アゲイン」の連載も楽しく、なかなか良い年でありました。

何より元気のもととは、娘が小学校に入ってずいぶん楽になったことです。こんなに面白い出産なら二度でも三度でもと笑っていたのですが、やっぱり出産の一周間しか休まずに働き続けてきたツケが

一昨年にどっと出たという感じでした。これはいけなないと、昨年七月、新潟県湯沢に居を移しました。電話に煩わされず、一日中、娘と遊びまわる生活。自転車で行くと赤トンボの大群や、道を横切る蛇と出会い、魚沼川で泳ぎ、岩の上で大の字で昼寝したり……

そのせいですっかり元気になり、昨暮、二年越しの立ち退き要求に応じ、二週間で三十軒のアパートを物色。電光石火、千駄ヶ谷にオフィスを移転しました。山手線代々木駅から十分、総武線（中央線）千駄ヶ谷駅から五分とかからないところですよ。

春夏秋冬の休みと週末は湯沢、あとは千駄ヶ谷という生活で気分も新た。今年から落ち着いて勉強をするつもりです。この十年、多くの人に助けられて何とかやってきましたが、勉強の足りなさを痛感します。さりとて、ぼうっと怠けてもいたし、さて今年はどうなりますやら。ともかく今年もどうぞよろしく。

（東京・円より子）

◆年の瀬もおし迫った十二月二十七日、念願の判決が出ました。報道等ですでに御存じかと思いますが、地位保全の仮処分が認められ、賃金も提訴した八八年六月にさかのぼり満額支払えという全面勝利と言える内容でした。会社側が立証しようとした事柄に対し、「懲戒事由に該当する事実があるとはいえない」とする判決骨子は評価できるものの、反面、当事者間の恋愛の継続は、就業規則の「素行不良」に該当しうることは一応否定できないと触れ、問題を後に残したままです。詳細は一月の会報をお待ちください。ともあれ、一年七か月を経てのこの結論、皆さんと共に喜びあいたいと思います。雪の降りしきる日の判決でした。

(旭川市・〇さんを支える会)

◆西暦二千年に残すところ十年となりました。

千載一遇の機会に会えますかどうか。昨年ほど国内外を問わず、民意が政治を動かした時代は無かったと思います。いらした気分が多少は晴れました。民意

の中の一人として希望を燃やしています。自由な気風の中で先進的な雑誌を出していらっしやるへあごらVに教えられています。

(鈴鹿市・山本和子)

◆さよなら〇〇主義
社会主義国の崩壊。

資本主義がもたらした環境破壊。

これからはひとりひとりの生き方が問われる時代。地球に生かされている自分を見つめる年。

シュタイナー思想を学びつつ歩みたいと思います。

個人の立場を大切に手を結びましょう。今年も宜しく。

(東京・木村 結)

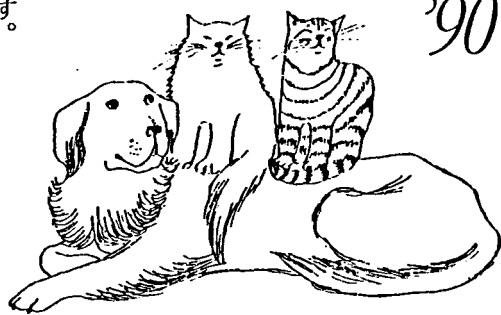
◆Michiganでの学習は、発見ではなく、確認の日々でした。

フェミニストを超えて仙人になりたい個人的望みなど、ままならぬ世紀末ですが、ていねいに歩いて行くことにします。

(東京・しま ようこ)

◆「山が動く」ことをより確実なものにしたいと願って九〇年代を生きたいと思

'90



います。
年明け草々の総選挙。お力をかけて下さい。

(東京・五島昌子)

◆世紀末にあたり、にわかに「民主化万歳!」の大合唱が沸き起こっていますが、わたしは「人生五十年」、そろそろ隠居気分です。

とはいうものの、明治以来の女性解放論のアンソロジーやら「銃後史ノート」の「六〇年安保」特集やら、それに九〇年代を見通すフェミニズム・レビューの企画もあり、どうやら今年は、二十世紀

の時間軸を往ったり来たり。行き暮れて、一九六〇年あたりで迷子になってしまいそうなのですが。

(川崎市・加納実紀代)

◆二十一世紀が足音をたてて近づいていきますね。

女たちの、世界に向けるまなざしは、九〇年代が、ますます、「女の時代」であることを約束しています。

手をとりあって、前進しましょう！

(東京・須藤昌子)

◆夏には横浜で「平和と正義のアジア太平洋をめざして」二つの国際会議を開きました。ここで神奈川県下で「草の根援助運動」をはじめることを決意いたしました。今年一月には運営委員会が発足するはこびになりました。県下の主な民間団体が参加しており、私もその代表の一員として、重い責任を感じております。



このような試みは日本では初めてのことで、ぜひ成功させたいと願っております。何とぞご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

六月に「暮しのなかの第三世界」を聖文社より出版いたしました。

(横浜市・北沢洋子)

◆本格的な脳葉時代が到来する一九九〇年代は、耳と耳との間の頭脳運営で、

change chanceに変えられる文字通り

激変激動の十年になるような気がします。

昨年は〈食生活ジャーナリストの会〉設立と発足、厚生省〈食を考える懇談会〉、

文部省学校給食百周年記念「食と健康を

めぐるシンポジウム」など多数の企画イ

ベントに参加し、沢山の出会いをいただき

しました。また秋に出版した「ウェルネ

スメッセージ・一億人の健康革命」(求

龍堂)も好評で喜んでいきます。健考、健

行、健幸そして健康な年でありますよう

心よりお祈り申し上げます。

(東京・砂田登志子)

◆今年はどうなはげしい変化がおこるか予測が付きませんが、女たちにとって、いい年にしたいですね。軍縮もぜひ実現したいものです。

(東京・駒野陽子)

◆政治の世界への女性の人材の足りなさ。男社会であったゆえにどれだけ多くの有能な女たちが埋もれてしまったかと。

(東京・小林カツ代)

◆継続は力なり。どうぞお元気で。

(東京・東浦めい)

◆山が動き、世界が動いて、たしかに日本も動く。

激動の九〇年代の幕明け！

△あごらVの播いた種があちこちで花ひ

らき実を結び始める！

一層のガンバリ、ご発展を！

祈っています、心から。

(高槻市・中村澄子)

◆九〇年代の予測はやりですが、どんな展望を持って新しい年を迎えられましたか？ 東西の冷戦構造は崩れ始めたものの、南北問題は一層厳しくなりそうです

ね。

昨年またカンプチア、ラオス、タイ、マレーシア、香港など南の国々を訪れ、夏には、ピールズ・プラン二十一世紀アジア女性フォーラムを開いて四十人ほどのアジアの女性たちと未来を語り合いました。

秋には、「女たちのアジア」(岩波新書)の英訳 "Women's Asia" がロンドンの Zed Books から出版され、世界の女性たちとのネットワーク作りに役立てばと願っております。そして、あと四年余りで企業内ジャーナリストの生活を卒業して、国境にとらわれずに生きる―そのための第一歩にと思っています。

解放の二十一世紀を目指して九〇年代を生き抜きましょう。今年もまたよろしく。
(東京・松井やより)

◆おかげさまで元気で居ります。

年を重ねるごとに、いのちの有難さと人様のやさしさが身に沁みるようになってきました。いよいよ考えることの多い世の中になりました。老骨に鞭うって私も動き

今年はずっと深く生きたいと思います。

(筑紫野市・田辺幸子)

◆いま国会で、消費税「見直し」か、「廃止」かが争われていますが、「見直し」で消費税を残せば、アメリカからの軍備拡充要求に押されて、一%上げただけで二兆円ともなる税率が、三%のあと五%七%一〇%とつきつきハネ上がり国民の生活をきびしく脅かすことになりかねません。

こんな悪税、断乎「廃止」するしかありません。
(東京・相沢ヨシ)

◆二〇〇〇年に向けての節目の今年、改めて女性とメディア問題が課題となっています。

お蔭様でユネスコの協力を得てアジア太平洋地域女性ジャーナリスト・セミナーを、春にはマニラで秋にはハノイで開催することとなりました。

(東京・渡辺晴子)

◆女の時代がコマーシャルズムにとり込まれていくのが心配です。

そうならないために、女性たちはもっと

連帯し、知恵を集める必要があるようです。
(神奈川県・鈴木みどり)

◆昨年は内外とも激動の一年でした。丁度一年前東から西からベルリンの壁を直視する機会を得た私は東西ドイツ国民がこの壁を打ち破って相擁するはいつの日かと胸を熱くしたものでしたがこんなに早く現実のものになるとは、と深い感動に包まれています。政治は本来すべての人のしあわせのためにあるもの。洋の東西を政体のいかんを問わず、ことしも政治の浄化民主化にアタックし日本の「政治の山」を揺り動かしてまいりましょう。

どうぞ本年もご健勝でご活躍の程、そして相変わりがせぬご指導をお願い申し上げます。

ことしもよいお仕事を、期待しています。

(藤沢市・大久保さわ子)

◆九〇年代は女にとっても正念場、私も気持を引きしめてスタートいたします。

(新潟・倉元正子)

◆昨年は皆様方のご援助をいただき、被爆者の方たちと共に、ベルギーにて一週間平和運動に参加後、オランダ・スイス・フランスと想い出深い旅をしました。五十歳を記念して「自分史」を出版するための費用を使い果たしましたが、貴重な体験ができました。

この体験を糧に、本年も仕事と学習に励み、心ゆたかに過ごしたいと存じます。

(大阪・澤田和子)



ラコチ・インディアンの天幕の絵

◆去年は偶然、激動寸前の東欧を歩くという体験をしました。今年はどうなることになるのでしょうか。

(東京・青木やよひ)

◆世界が揺れています。日本も変えたいですね。

(あごろ)の御発展を心から祈ります。

(東京・UNICEF事務所)

◆人間の真の解放、それは女性の真の解放、である社会を築くために、じっくりと粘りつよく、ラジカルに、歩み続けたいと考えています。それにしても、きびしい道程ですね。(あごろ)にも、大きく期待しています。

(飯能市・柴崎和恵)

◆昨年は、よいお産を考えるための会合があちこちで開催されて、きめこまやかなお産を求める声が、一汐昂まったようでごさいます。Aお産の学校Vはラマーズ法に世間の注目を集めるために、スタッフ一同努力を重ねて参りましたが、十年たった今、夙期の目標はほぼ達成されたと存じます。

◆本年は新学期から、妊産婦さんのニーズに合わせて趣向を変えてみようと考えております。新しい政治の季節が明けるとよいのですけれど。(東京・杉山次子)

◆昭和が終わり、平成の幕開けの一年は私にとりましても慌ただしい日々の連続でした。老年とはいえ家事雑用の部分ではかなり協力してくれた母のありがたみを追慕しつつ、ただひたすら時間の不足を嘆いております。

十一月に刊行された朝日新聞社の用語辞典「知恵蔵」の食生活の項目を執筆。ワープロの恩恵に感謝しつつ自分のためにも非常に勉強になりました。

(東京・碧海西葵)

◆一九八九年、〈わいふ〉からは十冊の本が生まれました。

九〇年代はますます多忙になりそうです。

(東京・田中喜美子)

◆何とかやっております。

(東京・伊東すみ子)

◆二十一世紀まであとひとつとび……。熟年を生きることにしました。

○「主婦の再就職センター」が事業を開始しました。二月七日(水)より大阪府立婦人会館で連続十回の「主婦の再就職準備講座」を開きます。よろ

しくご援助ください。

○〈性役割意識を考える会〉とともに男性のための行動計画を出版します。

○四月より大阪市大経済学部大学院生になります。

○研究室の機能の充実をめざしています。

(大阪市・金谷千慧子)

◆四月 朱明の節

飄々として衲衣を著く

水に臨んで楊柳暗く

岸を隔てて桃李飛ぶ

行く行く野草を摘み

徐々に柴扉を叩く

胡蝶 南園に舞い

菜花 東籬を遶る

意閑にして白日永く

地僻にして趣自ら奇なり

我が性 逸興多し

句を拾って自ら詩を成す

良寛

本年もどうぞよろしく。

(奈良・鳥越ゆり子)

◆今年は優生保護法でも皇室のことでもどう取りくむか問われる年になりそうです。でも個人的には自分を見失わないうい豊かさがもっとほしいと思います。

(東京・米津知子)

◆激しく動く歴史に直面して、昨年は多忙をきわめましたがお陰様で充実した一年でした。

性差よりも個性が尊重される。個性が性を越える。時代が始まっていることをとても嬉しく思います。

(松戸市・船橋邦子)

◆皆様たゆみなく頑張っておいでなのに、こちらは何だかウカウカ過ごしておりますが、事件、事件、のニュースの中で何とか環境問題を、とあがいたりもしています。

(東京・高増泰子)

◆今年の干支は牛。名実ともに飛躍の年ですが、小生に限って言えば去年三月、第二の勤め先を定年退職。六〇年ぶりに時間に縛られない身になりました。今まで私を生かしてくれた神様にあらためて感謝したい気持ちです。

さて「余生」をどうするか？この気持ちには過分のお年玉を戴いた幼い日を思い出させます。

(東京・鈴木幸平)

◆生きるに値する人生観を信じ得る人は素晴らしいと思います。

「人生観」があれば「社会観」もあるはずだと思います。社会観即ちイデオロギーですが、追及するに値するイデオロギーを持つ人も、私は尊敬する者です。

本年もよろしくお願いいたします。

(仙台・牧尾一彦)

◆昨年は歴史に残る激動の一年でした。私自身も仕事に追われ、きびしい一年でした。

でもまだまだ頑張らなければと思っております。

(大阪・白井博子)

◆昨年は、昭和の終焉にはじまり、地球のゆらぐような多事な年でした。そして九〇年代が始まります。

御元気で御活躍をお祈りしつつ。

(浦和・石川房子)

◆〈あごろ〉のふだんの努力に対し心から敬服しております。



私は茶道・華道の底しれぬ深い世界もがいております。

(東京・寺岡 東)

◆女性問題の砦として、ますます期待が高まっています。

ご健闘を共に。

(春日井市・山本ふき子)

◆「あごら」は女たちにむかって、的を射たメッセージを放っておられますと存じます。

(福岡・河野信子)

◆ご無沙汰ばかりですみません。内外ともに激動の年でした。世界はこれからおもしろそう(?)

私どもでは、昨年十月に新しい家が完成し、カサ・デ・ラ・ムジカと名付けました。鍼灸の治療室や音楽の小さいスタジオもございますので、ご利用いただけたらと思います。

(東京・田代信子)

◆帰郷第三年目の新春も無事に迎えました。

生まれ故郷はまことに良きかな……で、すっかり体重が増し、減量に苦勞いたしております。

勤めを辞しましてから、自由に時間を使用する楽しさは捨て難いもので、高齢者コースや、施設ボランティアに参加したり、昔の仲間との集いや、山野草を楽しむ会への参加等、一週間の日程を結構忙しく過ごしております。貴会のますますの御発展を御期待申しあげます。

(新潟・磯部富美子)

◆今秋、議会開設百年記念展示会に、「女性と政治」コーナーを設けました。資料・モノ・構成に苦しみながらの年明けとなりました。

(横浜市・山口美代子)

◆女が世の中を変える——に期待して、ヨコハマで市民の候補を立てようと運動をすすめる中に参加しました。しかし、私の選挙区では、出したい人は皆、あの有様の政治に馬鹿々々しくって

——と出る気なし。自分だって同じなんだからせめられませんか。結局落下傘候補を承認することでチョン(私は異議をとねえはしましたが……)私たち女自身の問題を背負った感じ”でいます。

(横浜・池谷まゆみ)

◆同年輩の人が次々と卒業していくなかでまだNHKで留年しています。

運動に専念できなくてすみません。

(東京・梶谷典子)

◆昨年三月、日本女子大学を定年退職いたしました。労働省十五年、女子大二十三年の定職から解放されて、自由な研究生活にふみこんだところです。

(所沢市・広田寿子)

◆変革の時代です。私たちも「しなやかに、したたかに、生活感覚を大切に」男女共生社会を目ざして前進いたしましょう。

(武蔵野市・加藤富子)

◆今年も八ヶ岳山麓で、白銀に輝く日本アルプスを眺めながら、元気に越年致しました。

東欧を中心に世界情勢が大きく変わり



つつありますが、世界が自由と平和を喜び合える年となることを願っています。

(川崎市・高橋久子)

◆まさに、安保を斬りきざみ、ゴミ箱にポイ、と行きたい年。

私たちが掲げてきた平和憲法の理念がいまこそ輝きを増してくる年。

そのためにスクラムを組みたいですね。まず女たちで。

(船橋市・島田信子)

◆歴史の中に生きていることを実感する毎日ですね。しっかりと歴史へ参加していきたいと思っています。

(横浜市・久場嬉子)

◆女性の力がいよいよ頼みになってきました。お仕事に期待しています。

(東京・原田東翁雄)

◆「ナンダロー」一歳七か月の息子の口癖です。私もこの姿勢を忘れずに、九〇年代を出発したいです。今年もどうぞよろしく願います。

(東京・小林わかば)

◆私どもお陰様で年齢相応の健康を保ち当地七年目の正月を迎えました。昭和と

いう時代の終りと共に始まった昨年は実に多い年でした。五月から六月にかけ革命二百年のパリを訪れる機会に恵まれ、

その間にボルドーのモンテーニュの遺跡を尋ねて宿願を果たし、続いてドイツ會遊の地を巡ることができました。ミュンヘンでは天安門事件に抗議して中国の民主化運動に連帯を表明する学生と市民のデモに遭遇しました。最大の事件は十一月のベルリンの壁崩壊に象徴される東欧の動きです。この度の雪解けと新しい春の兆しは人類の未来への希望に繋がります。テレビの生々しい映像、自由を得た喜びに言葉を失った人々の表情に感動しました。東も西も世界が大きく変わろうとしている時、私達の国は相変わらず目の先の繁栄に気を奪われて金にならぬ文化を軽んじ弱者を切り捨て、効率と利潤至上の品位のない国の姿に見えてなりません。そのような思いの中で、畏友青山学院の雨宮剛教授から「フィリピンに学ぶ」という書物を頂戴しました。われわれの「繁栄」が実は南の国の民衆を犠牲にす

ることの上に成り立つ「罪深い豊かさ」

であることに気付き彼等の為でなく我々自身の為に「第三世界の人々に学び、分かち合い、共に生きる」必要を考えて毎年有志の学生を率いて実践されている

「体験学習」の報告です。ドイツの作家ギンター・グラスの同趣旨の発言が今日の朝日新聞に紹介されました。今年は更に激動の年となりましょう。ご自愛下さい。(仙台市・福島杉夫・美代子)

◆昨年の夏から新しいパターンの生活を始めましたが、まだ何となく戸惑いつつも半年が経過しました。

これからも起伏の多い人生になりそうですが、自分を見失うことなく、歩いて行きたいと思います。

(浦和市・深田範子)

◆昭和女性史にあけておられます。

(東京・永畑道子)

◆九〇年代は、

「内なる〈あごら〉」から「外へ向けての〈あごら〉」でありたいと話しています。(鳥取市・前田享子)

◆広島のエッソールも四月に一周年を迎えます。
(広島・檜山洋子)

◆仕事(日本語講師)の中で、世界の激動、女性の変化をいろいろ感じました。

(京都・石川美智子)

◆女性の時代

その内実が問われる年であると思います。私ももうひとがんばりしたいと願って居ります。

(東京・山本和代)

◆今年はセクシユアル・ハラスメント、性暴力追放年にしたいと思っております。これらをまとめた「おんなの叛逆」三六号が昨年末できました。

(名古屋・久野綾子)

◆若き日の夢まださめず

ぬばたまの髪に霜降る

還暦の春

(東京・榎 玉淑)

◆総評の消えた昨年、老人はかつての連帯に希望をもったことを思い出しています。あたらしい連帯、やはり希望をもちたいことです。

(奈良・池田正枝)

◆時の流れがますます速くなり社会の変動と私自身の生活の波調があいませぬ。こういう時は、まず基本的生活を健康に送って、本作りをしたいと思います。

(東京・平岡美智子)

◆女性外人労働力問題は労基法・安全衛生法でいまのまま防げることです。世論より法規の筈ですがモタモタ。法規闘争より行政機関への刺激でやれそう。お元気に。

(東京・孫田良平)

◆何か変化が期待できそうな時代になってまいりました。

私も昨年よりは前進したいと思っておりますが……。

(仙台・太田洋子)

◆昨年は一年八か月ぶりにヨーロッパから帰国し、なつかしい人々との再会を楽しましました。

(東京・林 陽子)

◆女性が考え、取り組まなければならぬこと山積していますね。

(東京・黒田みや)

◆すごい世紀末になってきましたね。だれど生きていてよかったと思います。

(東京・大江一道)

◆エコロジーがフェミニズム運動にプラスになるのかそれとも――。

少ない力が分散されそうで、などと、小心中者は心配しています。

(東京・石川由紀)

◆七十余年の星霜を生きて、歴史の転換のときにめぐりあうことができました。東欧諸国の人たちの「民主」を求めるあつい息ぶきに感動しています。

健康第一に新しい年を生きつづけるつもりです。

(東京・山下正子)

◆二十一世紀まで残る十年となりました。九〇年代の早い時期に非嫡出子差別が法制度上、撤廃されることを願ってやみません。

昨年は交流会として裁判一周年の集会をもち、集会記録集を作成することができました。集会準備の過程で、またそれ以降も、いろいろな方と知り合うことができました。会員数も現在八十になっています。今年はもう少し翼をひろげていきたいと思っています。多くの方と出会い、縁をきり結んでいくことを通し、

この裁判の関心をひろげていけたらと願っています。

住民票統柄裁判の勝利と前進に向けて、少し大胆に、少し羽をひろげて、この一年間を歩んでいきたいと思っています。

(東京・田中須美子)

◆ 昨年は闘争に明け暮れましたが、今年こそ平和な年であるよう願ってやみません。

今年も最大のお力ぞえをたまわりますよう。

(沖縄・新里律子)

◆ 沖縄でのお話、「あごろ」でよくわかりました。ほんとうに勇氣ある実践で、私も何かやらなければ、とふるいたさせてくれました。

世界の激動期にあつて、日本だけ安閑としているのは、許されないのではないのでしょうか。

(東京・野々村恵子)

◆ 「私は真宗門徒であることより、国民のひとりであることの方が先だ」と言った門徒さんの言葉にこだわっています。

「国家内真宗」を説き続ける誤りに私たちはどこまで気づいているのでしょうか。

こんなことって、あるか!?の判決続々。まさに「邪正の道路を弁うることなし」情況にへつらう司法にどれほどの存在理由があるというのでしょうか。

一党独裁の体制があちこちで崩れはじめています。自由と平等を願求する民衆の熱い思いがピンピン伝わってきます。

この国も、そして大谷派教団も決して例外ではないはず……。

(愛知・鈴木 磐)

◆ 「明日」は「明るい日」でなければならぬのですが、私たちの未来は明るいのでしょうか。まず若者の多くが、未来への希望を持っていますね。世の中に出る前に、自分が歩くルールが、もう見えちゃっているんですね。自分の未来を構想する自由もない時代なんて、子供を持った親は困ってしまいます。

では大人たちはどうでしょうか。昨年は世界にも日本にも大きな変化がありました。しかし現実の足下を見ると、何も変わっていませんね。原発、軍拡、土地、税金、教育、環境、みな悪くなっている

ばかりじゃありませんか。東欧の民主化に拍手するだけでなく、日本の民主化こそ進めてほしいものです。

盲いたる民の行く先核爆発

来年まではぜひ生きていきましょう。

(横浜・丸山 尚)

◆ 実家は下北沢。十五年ほど前には新宿区の公務員でした。こちらに来てレポーターになったのが機縁。書くことに燃えている。三十九歳の主婦です。またお会いできる縁を期待して……。

(長野・神田千尋)

◆ 記者として厚生省を担当し、医療や社会福祉の問題に取り組んでから二年。大切なテーマばかりで、あれもやらなきゃ、これも……と思っているうちに八九年はあつという間に過ぎました。今年もよろしくお願いします。

(東京・布施優子)

◆ 天安門事件、東欧と大衆市民の声が社会を動かし始めたように思います。今年も一層の御活躍されますよう。

(仙台・羽太宣博)

◆民主化を求める各国のうねりに人間の底力を感じています。

(大阪・川名紀美)

◆十二月に藤井里子がマレーシアから一か月だけ帰国しました。大阪の府立婦人会館で出来た仲間たち三名を彼女に紹介、四名で月一回読書会を発足させました。今年是一年続けいの努力を四名でやってゆこうと思います。

(吹田市・吉田悠子)

◆新聞や月刊等で、ご活躍を拜見しています。今年もどうぞお元気で！

私も地道にやっていきたいと思っています。

(横浜・向後裕子)

◆選挙の座談会(二回)そうだ、そうだと息をつまらせる思いで読みました。各界に女たちの層があつく、ひろがってきつつありますが、まだ、まだ……。私も、自分のまわりの女たちいく人かと力をつけてゆきたいと思っています。

(鹿児島・横山雅子)

◆皆さんのご活躍をお祈り申し上げます。私は専業主婦二年目です。三人の子育て

を通して、社会にかかわっているつもりです。〈あごろ〉の情報は、とても貴重です。

(上尾市・高橋洋子)

◆皆さん、健康に留意されて御活躍下さいますように。

(東京・小川俣子)

◆昨年四月から医療技術短期大学部にいます。看護婦、放射線技師、臨床検査技師を養成するところです。珍しく女性の教官の多いところですが、医学部系の教官は授業時間数が少なく、看護系の教官は週に三十数時間も授業を持っており、気の毒なくらいです。

私は、最近アマチュア写真家の仲間入りをしました。今年の入賞めざしてがんばります。

(熊本・小堀蘭香)

◆沖縄はいつ出合っても重く、それを正面からとりあげていたのに感激いたしました。

(市川・横山れい子)

◆昨年はギャロップしどろしの一年でちょっとつかれました。今年は並足で着実な日々をすごしたいと思っています。

年を重ねる度に、やりたいことがふえ、勉強しないといけないことも増え、さば

き方に四苦八苦ですが、アフリカのサバナを吹きぬける風の様に、どこまでも悠々と歩んでいけたらと思います。宜しく御指導下さいませ様。

御健康を御祈り申し上げます。

(昭島・松本めぐみ)

◆沖縄特集、すばらしいと思いました。女性とか男性とかより、沖縄問題の中に日本人が収斂されております。

(足利市・中込道夫)

◆今年もよろしく願います。「あごろ」一四六号は十二月末に紙面で紹介しました。

(琉球新報・文化部・又吉喜美枝)

◆あかねグループの活動も今年は八年目を迎えます。高齢社会の問題は、ますます大きく重く私たち女性の肩にかかって参ります。今年も一年、社会の貨車を前進させるため皆さま方と力を合わせて参りたいと存じます。

(仙台・福永隆子)

◆激動という言葉が、まさに実感された、一九八〇年代が終り、新たな一九九〇年

代を迎え、万感の思いに、期待と祈りをこめて初春の御挨拶を申し上げます。

(東京・鬼女の栖)

◆あたたかい心の通い合う地域づくりをめざし、今年も多くの方々と手を携えて問題解決に向けて学習と実践を重ねていきたいと存じます。

(東京・全国地域婦人団体連絡協議会)

◆年の始めにあたり、キリスト教基盤にたつYMCAが、世界の女性とともに果たすべき役割を改めて考えさせられております。すべての人が平和のうちに生きられる社会をめざして努力をつづけたいと存じます。

(東京・日本キリスト教女子青年会)

◆耕馬に朝日天地睫毛を開けにけり

(中村草田男)

お変わりありませんか。

(東京・伊藤雅子)

◆昨年一年は、本当に激動そのものでしたが、今年も引き続き、いろいろ起こりそうな予感がします。

(東京・佐貫葉子)

◆將滿載的幸福與喜悅・悄悄的帶給

(中華人民共和國・表 晞)

◆一九九〇年のパンドラは……

*今春刊行予定「買う男・買わない男」

「女の負け?!」(仮題)

*五月、渋谷ユークロススペースにて公開

予定

「二〇〇人の子供たちが列車を待つて
いる」一九八八年 チリ映画。

山形国際ドキュメンタリー映画祭正式
出品作品

*その他、内外女性作家の作品を中心とした「ビデオラン」の開催や、一九七二年制作以後当局により上映を禁止されていたチェコ映画「老人の世界」の公開を予定しております。
今年もどうぞよろしく願います。

(東京・中野理恵)

◆横浜女性フォーラムは、おかげさまで二度目のお正月を迎えました。

昨年一年間で二十四万人の方にご利用いただき、各種事業も順調に成果をあげております。これも一重に皆様のご協

力ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

本年は、横浜女性フォーラム運営協議会委員の改選を初めとして、四月には国連パレスチナ難民救済事業機関との共同開催による刺繍展、九月に開催予定のフォーラムまつり、十月の全国婦人会館協議会全国大会など、通常の事業のほか、大きなイベントをいくつか予定しております。

昨年に引き続き本年もフォーラムの活動に皆様のご厚情を賜りますようお願いいたします。

(財団法人横浜市女性協会)

理事長 高橋展子

横浜女性フォーラム

館長 有馬真貴子

◆朝・日親善の更なる発展をお祈り申し上げます。

(東京・在日本朝鮮民主女性同盟)

◆九〇年代を迎え、さらに婦人教育・家庭教育の振興および家庭科学研究所の事業推進に努力してまいりたいと思います。

(東京・日本女子社会教育会)

◆昨年は、当会館の事業運営になにかとご指導、ご協力を賜り誠にありがとうございました。

今年も、職員一同、生涯学習社会の進展の中で「より魅力ある会館づくり」を目指して更に努力してまいりますので変わらぬご支援をいただきますようお願い申し上げます。

(埼玉・国立婦人教育会館長

前田瑞枝・職員一同)

◆昨年中は当館の事業運営に何かと御指導、御協力をいただき誠にありがとうございました。

今、人生八十年、生涯学習の時代を迎え婦人の学びの輪も大きくひろがってまいりました。

婦人会館が婦人教育活動の拠点として機能を充実し、より魅力あるものとなりますよう職員一同努めてまいりますと存じます。

今年もどうぞよろしくお願い申しあげます。

(福岡市立婦人会館)

◆昨年は本会にとり記念すべき年でした。

ユーロパリア89ジャパンの開催にあたりブラッセルにおいて「教育」をテーマにシンポジウムを実施し、盛会裡に終ることができました。新しい経験をふまえて一層の努力をいたしたいと存じます。

(社団法人 国際婦人教育振興会

会長 石本保子)

◆昨年は、国際、国内ともに激動の一年でした。私たち日本婦人会議にとっても参議院選挙で、清水澄子議長をはじめ、七人の国会議員を、また、六人の都議会議員を新たに誕生させることが出来、運動に新たな展望が切り拓かれた年でした。この間皆様からお寄せいただきましたご厚情、ご支援に、あらためて深く御礼申しあげます。ひきつづき衆議院選挙において与野党逆転をめざして努力する決意でございます。

武力による対決から軍縮・対話へ、統制・管理から自治と民主主義へ、男性優位から男女共同社会へ……。様々な意味で、これまで支配的だった価値観が問い直されているこの時代にあって、私たち

も歴史を押し進める原動力の一つとして役割を果たせたらと念じております。今後とも変わらぬお力ぞえをお願い申し上げます。

(東京・日本婦人会議中央本部)

◆ウイメンズブックストア松香堂の八年間の仕事を通じて、実に多くの女性との出会いと交流があり、女のネットワークが広がりました。女性問題のアプローチと女性の仕事を繋ぐため、新たに有限会社フェミニネット企画を昨年創設致しました。

(京都・有限会社フェミニネット企画)

◆昨年は、私たちの会の運動に、あたたかいお励ましをいただきありがとうございました。婦人の政治への関心と自覚が高まるなかで新しい年を迎えることができました。

一九九〇年、新しい年を婦人と子どもたちが輝いて生きられるよう、みなさまと力を合わせてまいります。

(東京・新日本婦人の会)

女どうしケンカさせて

うしろで笑っているのは

誰だ?!

仕掛けられた上野千鶴子VS曾野綾子

を読む

レポーター 谷 百合子

へあごら札幌V11月例会は週刊誌をにぎわした上野・曾野論争(?)を取り上げた。ことのいきさつは、「朝日新聞」に書いた上野さんの文を曾野さんが批判したことからはじまる。

7/23 「朝日新聞」 「ミッドナイトコール」から

1989年6月4日、中国の「血の日曜日」以来、わたしは胸のつぶれる思いが続いている。天安門の学生たちの姿には、二十一年前のわたし自身の姿が重なる。催涙ガスのおい。警棒が肉体にふり下ろされる時の鈍い響き。広場を去らずに無力な蟻のように死んでいく学生たち、ひとつの問いが重なる。――

わたしは、あの場を、去らないだろうか

?私は全共闘世代。堺屋太一さんのつく

った「団塊の世代」という用語を、わたしは好きでない。同様に「学園紛争」と

いう言い方も好まない。あれは大学当局

にとつては「紛争」であつても、学生に

とつては「闘争」だった。――上野さんた

ち。戦中派はね、と自称。戦無派の

年下の友人が、おくめんもなく言う。そ

う、世代の分岐が年齢によってではなく、

社会的な事件によって細分されるとした

ら、二十一年前のあの事件は、わたした

ちにとつて、ひとつの「戦争」だったの

かも知れない。

(上野 千鶴子)

この「戦争」という表現を曾野さんが

批判した。

ほんとうの戦争をローティーンとして

知っている私は、このような甘い言葉を

聞くと深く当惑する。戦争は二つの要素

を持ってこそ戦争なのだ。それには常に

命の危険がつきまとうこと。そこから個

人の意志では逃れられないこと。アメリ

カの青年は、徴兵で送られたベトナムで

たくさん死んだが、日本の「学園紛争」

の時、学生は一人も死ななかった。それ

に対して警官は何人も殉職した。学生は

危なくなれば、いつでも闘争をやめて家

に帰ることができた。そんな気楽な戦争

はどこにもない。一方、当然のことだが、

職業としての警官にはやめて帰る自由は

なかった。あれを戦争と言ふのなら、そ

れこそほんとうの「戦争」を闘わされた

警官の側であつた。「新潮45」9月号

「夜明けの新聞の匂い」 曾野綾子

以上どちらも抜粋なのでぜひ全文を読んで下さい。

で下さい。

読解力のある人なら、上野さんが「戦争」を比喻として使っているのはすぐわ

かる。それよりも例会では、どの視点から見ているかが問題になった。「ほんとうの戦争」を闘わされたのは警官の側であつた」という警官の側に立って見ている曾野論文と、警棒をふり下ろされる学生の側から見ている上野論文の違いは、はっきりしている。「学園闘争」「大学紛争」はお坊ちゃまお嬢ちゃまのお道楽に対して、警官隊はむしろ命を張ってそのお相手を申し上げた、ということになる(曾野)には、「ひどい!」という声が上がった。

「学園闘争」では何人もの死者を出している。曾野さんは無知をさらけ出したことになる。

お道楽で学生運動はできない!

学生には就職が待ちかまえている。資本主義社会で食って行くためには、当然一度はぶつかる壁である。また、労働者は家族がいたりて捨て身になれないから、素手で純粹に立ち向かえる学生が、時代

の危機を見て見ぬふりはできない。その葛藤を経てきた人は、(私も含めて)上野さん同様、あの天安門の事件を、やはり胸のつぶれる思いで見たに違いない。

女は黙っておしんする?!

曾野さんいわく「私は昔から、いわゆるフェミニズム運動が嫌いである。昔からほんとうの実力のある女は、黙って働いてきた。戦前でも、誰も海女や行商のおばさんや電話の交換手さんのことをばかにしたり、彼女らは、いなくていい存在だなどと思った人はいない」

もう、ジョーダンじゃないよ曾野さん。

時代感覚のズレもはなはだしい。これからの時代、女はどう助けあうか、ひとりぼっちにならないで、いかに手を貸しあえるかが大切になっているのですよ。自立イコール孤軍奮闘とは違うのです。

エリート女のエリート主義は強者の論理

上野さんの説に全く同感!「エリート」の女はあまりプライドが高いために、個人の問題を類の問題に結びつけることができない。その結果、彼女たちは強者の論理を身につけ、弱者への想像力を失ってしまう。(略)フェミニズムは、社会的弱者の運動である。(略)女が実力を身につけるのに、さまざまな構造的な障害があることが問題なのに、その構造的な障害をなくそうというのが「運動」なのに……

マスコミ(男・体制)はフェミニズムがお嫌い!

11/25、午前8時フジテレビ竹村健一の「世相を斬る」五百回記念パーティーには、なんとあの曾野綾子さんが熱い激励をのべていた。ほかに石原慎太郎、森山官房長官、黒川紀章、堺屋太一、橋本幹事長、伊東ゆかり……といった面々。渡部昇一氏は「竹村氏は家庭(社会)をゆるがすようなことは言わないし、天皇制

を批判しない。そこに日本人としての心があり、安心感がある」と言った。ある大臣は、「政治家（自民党）がなかなか言いにくいことをどんどん言ってもらえる貴重な人」と言っていた。当の健一氏は「これからますます、マスコミの力が重要だ。日本のために頑張る!」と気炎を上げていた。

見ていて背筋が寒くなってしまった。

右寄りマスメディアと体制の団結式だ! そしてリブだとき

「週刊ポスト」の見出しは上野さんに対する悪意を感じる。「曾野さんひさびさに叱り飛ばす」「おまんこいっぱいフェミニズムの旗手」「お嬢ちゃまのお道楽」「なんて下品な文章ね」「週刊新潮」は「団塊の世代」のずるさ」等々…。

リブが台頭して困るのは体制なのだからね。「性別役割分業否定」をみんなが言い出したら日本の企業はガタガタ。

「女も天皇に」なんて言い出したらコトだもンネー。上野さんは「女のあいだのちがいがはつきりしてきたことは、よいことだ。『これからは誰が言ったか』ではなく、『何を言ったか』が問われるだろう」とのべている。私がかかわっている八国家秘密法に反対する女の会Vでさえも曾野さんの肩を持つ人がけっこういて非常に驚いたことがある。警棒をふりおろす側から発言するののか、ふり下ろされる側から発言していくのかは重大なことだ。

「ずるい女」になりますか?

「朝日新聞」のコラムで中野翠が「ずるい女」というエッセイの中でこう書いている。「一略一セクシャル・ハラスメント糾弾ばかりでなく、女性差別反対を叫んで闘っている女の人たちに対して、同姓は案外冷たいように見える。」として、彼女は成果だけを手に入れる「ずるい女」になりたいと言っているのだが…

…。

今や「女性差別」という言葉も世間に通用し、リブとかフェミニズムもようやく市民権を得てきた感がある。これは、先人たちの積み重ねの上に、私たちが立っているということなのである。

フェミニズムの運動は実に小さいことの積み重ねだ。例えば出席簿の男女の順番しかり、別姓の問題しかり…。このことを真摯に受け止めるかどうかで、「ずるい女」になるかならないか、分かれるような気がする。

上野さんは曾野さんの批判に対して11月号「月刊Asahi」で実に胸のすくような反論をしている。ぜひ一読を!



クアラ Lumpur

藤井 幸子

熱帯の国、マレーシアから新年のお喜びを申し上げます。

当地はお正月らしい風情皆無です。やたら暑くて、じっとしていても汗がにじみ出ますし、外出すれば、めまいがしそうな強烈な日光の下、脱水症状を起こしそうです。

マレーシアのクアラ Lumpur に二年いて、今年二月には、シンガポールに移ります。亭主の転勤で振り廻されます。

クアラ Lumpur とかシンガポールとかの都市の名前は、年輩の方は、戦争中、大本営発表とかで、よく聞かれたのはありませんか。日本軍のマレー半島侵略、シンガポール占領など、わずか四十年前は、大量の血が流された。戦場だったのですねえ。

戦争前、この地にいた商社自営の人たちは、1942年から敗戦数年後まで、英国軍によって、抑留されました。家族ともども約三千、インドに送られ苛酷な収容所生活を送った

そうです。戦争での捕虜の話は日本でもよく聞きましたが、民間人が日本軍侵略のおかげでひどい目にあったということはありませんでした。こちらにいた人のうち、ほとんどは、米、英の力を知っていましたから、まさか日本が開戦するとは、夢にも思わなかったそうです。偶然この地に来て、意外と日本で知られていない話がたくさんあり、驚いています。

観光客相手に、日本軍の落としていった貨幣や軍票が売られています。中には、本物かどうか疑わしい人骨の一部もありますが、マレー半島のジャングルの中には、今も、行軍中死んだ兵隊の遺骨が埋まっているそうです。

今でこそ、このクアラ Lumpur の都市に優雅な生活をしている私たち日本企業の家族ですが、いつ事態が変化するか予想もつきません。以前住んでいた南米ブラジルのサンパウロほど、治安は悪くありませんが、年配の人の中には、日本軍に恨みを持っている人もまだいるでしょうし、経済大国の侵略という図は、軍事侵略と大差ないように思えますから、反発を買うでしょう。私たち一人一人の行動を心せねばと思います。

さて、今年は、いよいよ念願の駒尺喜美さんのシニア&ウーマンズハウスが大阪の便利のいい地に建ちます。

私の自宅からも近いので、日本に帰って、本格的にお手伝いさせてもらおうと思っています。

私財で、女性のための学習の場、仕事の場を創り、提供して下さる駒尺さんに大阪の女性グループは数年前から協力を惜しみませんでした。今回、私はハあごら大阪Vとして、グループでかわりたいと申し出ました。以前の会員で現在は、会誌講読はしていないが、気分はあごら、という女性たちにもよびかけて賛同してもらいました。

私の義妹、吉田悠子さんも、新しいあごら講読者数人と積極的に、駒尺さんの呼びかけに応じています。

ハあごら大阪Vとしては、ハあごら東海Vのように強力なスタッフがいないので、自分たちだけで活動することが困難でしたが、シニア&ウーマンズハウス構想に乗ってハあごらVを提示します。

事業体を作り、資本を出して、実際に仕事をし、利潤追求というところまで行きたいと思います。もちろん、女性、特に中高年の再就業転換としての場を創ることがメインテーマです。まず私自身、実験的にやってみようと、一昨年、日本に一人残って、職業訓練を受けました。

クリエイティブ・ビジネスを目ざしています。それも高齢化社会にフィットする事業をと。具体的なプランは、四月に

出しますので、ごらんになって下さい。海外にいても常に女性の視点で、社会構成をながめ、ハあごら思考V、どの地に飛んで花を咲かせるか、楽しみにお待ち下さい。ハあごらVは不滅です。なんて言ったら時代がかって笑いのものでしょうね……。

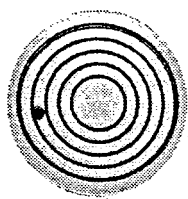
なお、ハあごらVという名称は、事業体の名称に使っていないでしょうか、例えば〓株式会社あごら大阪〓というネーミングを商標、法人名に使用することは、遠慮したほうがいいでしょうか。四月に日本へ帰りますので、その時まで、お考え下さいませ。

海外にいらっしゃる会員の皆さん、あなたの暮らしや、そちらの様子を事務局までお送りください。四〇〇字詰め原稿用紙三枚以内。写真はできればモノクロ、カットも大歓迎です。

海外のあごら会員は27名

アジア8名、アメリカ合衆国6名、ヨーロッパ7名、アフリカ1名、その他5名

ハ1990年1月20日現在V



△あごら文庫V
ネットワークに参加
しませんか。

あごら読書室をそのまま書房に変えて
スタートした△あごら書房Vは、2月で
ちょうど一年になります。昨年の暮れに
は壁もお化粧直しをしてリフレッシュ。
△あごら書房Vの一周年と改装をお祝
いして、3月23日（金）から25日（日）
まで、細田ひろみさんの陶芸展を開きま
す。本の販売も同時にしますので、ど
ぞ遊びにおでかけください。

広島のア家族社Vが1月からあごら文
庫ネットワークに参加しました。

このネットワークに参加すると、「あ
ごら」の特集号とBOC出版部の本の常
備店となることができます。

BOC出版部からは、東海BOCの高
橋ますみさんが書かれた△主婦が歩き出
すとき／1300円Vや、しまようこさ
んの△自立の心理学／1800円V、山

下智恵子さんの△幻の塔／1600円V、
斎藤千代さん共訳△自分を变える本／
1300円V等が出版されています。も
っともっと多くの女性に読んでいただ
きたい良書です。

△あごら文庫Vは自宅の書斎や玄関先
でも開設することができます。

最近地方で脱原発など市民運動をして
いる主婦たちが中心となって、拠点に本
コーナーを併設した話を聞きましたが、
これも一案ですね。

「△あごらVの会員になりたい」と電
話をくださる方の中には①主婦が歩き出
すときを読んで知った②高橋ますみさん
の講演を聞いて③図書館で見たので、が
多いですね。

ところで、あなたが住んでいる地域の
図書館には△あごらVの本が置いてある

でしょうか。もし置いてない場合は、
「△あごらVの本を入れて！」のひと声
運動をすすめていただけませんか。助か
ります。

秋には本のブックレットを。

会員がすすめた本ブックレットを
いっしょにつくりませんか。地方のひと
で書評を担当したい方は事務局までご連
絡を。（あごら書房 大島ふさ子）

編集・校正・レイアウト募集

整理・校正・レイアウトなど、い
ずれも熟練者。在宅勤務も可。略歴
と希望給、得意な分野、かわりた
いジャンルなどをお知らせください。
160東京都新宿区新宿1-9-6

BOC出版部

あごら事務局の助っ人さん！

週に二日か三日、資料の整理や経
理などを手伝って下さる方。

03-354-3941にお電話を。

「あごらはギリシャ語で「広場の意味。古代ギリシャでは、人々が広場に集まっては情報を交換し、議論を戦わせた。『そこから哲学と民主政治という偉大な成果が生まれた。』あごらは女が抱える問題を、自由に語り合える広場を目指してきまし

ネット

ワーク

あごら



月刊誌「あごら」の編集作業に没頭する

省から、まず、女性が働くことの意味について十分ディスカッションし、その後で、女性の職場進出を促す運動を始めた。現在では反戦、中絶など、政治、法律に関する問題も議論の対象になっている。が、他人や社会を批判するのではなく、職場に進出する前、その問題について自分の理解を深めようという姿勢は変わっていない。

月に一、二回開く例会のほか、可能性教室と名付けた講座を開いている。「育ち育てあごら」をモットーに、会員が互いに技術を教え合う場で、「フェミニストのための英語教室」「ブログラマー入門」などがその例。また、会員の自由な意見を発表することを目的に、月刊誌「あごら」を編集。編集作業は各地の拠点が持ち回りで担当する。

「一人ひとりが情報の受け手と同時に送り手でありたい」（斎藤さん）からだ。

九〇年代は女性にとってどんな時代になるのか。「女性」の社会進出は一過性のものではないが、参院選後に見られた女性たなきのうに反動は起きている。今年は大変な年になると、メンバー一同気持ちを引き締めています」（斎藤さん）。

た」。呼びかけ人の斎藤千代さんの弁だ。

発足は一九七二年。現存するフェミニズムのグループのなかでは最古参。当時、三百人だったメンバーは現在千人にまで増え、男性も数十人交じっている。事務局は東京・新宿に構えてい

るが、北海道から沖縄まで全国十四カ所に拠点があり、自主的な活動を展開している。

スタート時は、働く女性の問題が主なテーマだった。斎藤さんは「今のよう

千人が語り合う「広場」

▽▽▽

連絡先 二一六〇 東京都新宿区新宿一ノ九ノ六 あごら

たい、行動力のない私にできることは、友達に読んでもらうことくらいいしかありません。

沖縄の貴重な情報を本当にありがとうございました。(東京 牧野靖子)

◆あごら事務局の皆様、家庭と子育ての中の大切な時間を提供して活動いただきごころうさまです。私も今年佐賀県婦団連主催の海外研修派遣事務局の仕事を担当して、何事も人のやっていることは部外からみると少しもわかりませんが、自分が一步入ってみて大変だということを実感しているところです。

ところで沖縄の戦前戦後(特に戦後)における地理的条件といっではないけないけれど大変苦勞なことです。

シンガポール日本人学校(世界最大の校長先生は沖縄出身の方でしたが、三ヶ年の勤務大変な苦勞ですがなかなか指導力と情熱を持っていらっしゃる方でした。やはり、沖縄をよくするも悪くするも、どこでも同じですがその住民の姿勢にあると思います。過去をぐちつても

始まらないし、私達共々、他人の痛手が理解できるよう協力し合って出来ることから働きかけたいものです。

(佐賀 志津田合子)
◆一般の新聞では得られない情報を伝えてくださり、大変参考になりました。

(大阪 小出美穂)
◆とてもすばらしい感動を与えてくれました。

沖縄問題はもちろんですが、国会での堂本さんの質問をめぐる会議録は貴重な資料となっています。みなさんのエネルギーを受けつつ、私たち自身も自分達のために元氣を出しているんな事にこだわりたい、変えてゆきたいと思っています。

(東京 高松久子)
'89「中絶できる時期の短縮」に反対する女たちの会

031139114919

◆合田京子さんが第六回織田作之助賞を受賞されたという嬉しいニュースを聞きまして、私も五十五歳までには作家かエッセイストになりたいと大きな夢を持ち

ました。

現在仕事を持っていますので残念ながら講演会、勉強会には参加出来ないみたいですが、そのうち実現したいと思っています。

思い返せば、1980年代は年齢的に活躍しても良かったし、暇もあったけれど、ああだ、こうだと理由を付けて結局何もしないで終わってしまいました。

この十年間のムダを踏み台にして、1990年代は後悔のないように一日一日大切に生きたいと思っています。

東京で生活していると世の中の移り変わりがものすごく目まぐるしいので、時の流れが早く感じられます。

(東京 荒尾和美)
(147号)

◆セクシャル・ハラスメントに対する男女の認識の違いを掘り下げていくことは、面白くて意味ある作業だと思います。

それにしても昼間から電車の中で堂々と盛り場や裸の女性のイラスト、写真が載っている新聞を広げて読んでいる男性

を見るとけっこうぼしてやりたくありませんね。子どもたちが見たらどう思うだろう……まったく情けないことです。

ハリサVさんの記事ですが、問題の根は家父長制＝天皇制、つきつめればここなんでしょうね。セクシャル・ハラスメントもアジアのハ女性Vの問題も現代社会のあり方、男女のあり方を考え直すきっかけになると思います。ハあごろ九州Vのメンバーも皆さんパワーがありますね。

(大阪 西田冬至子)

◆昨年は大変お世話になりましたがとうございしました。私の再就職のスタートとして支えていただいたこと忘れません。お蔭様で、今は子どもを保育園に預けながら、都立の訓練校で経理事務をしています。また春からその力を生かすつもりです。あごろの発展を心よりお祈り申し上げます。

(田無 田中孝子)

◆年頭のあわただしい人の出入りもようやく落ち着いた昨晩、遅くなっているから読ませていただきました。

秋の勉強会でお伺いした沖縄の生々し

い事実が活字となると、また違った迫力で鮮明に記憶に刻まれていきます。知らないことが多過ぎました。「ほんとうに？」という素朴な疑問に涙で読めなくなることもたびたびでした。

あごろジュニアの例会が始まりました皆さんに回し読みしてもらうつもりであります。

私にも二十六歳の十九歳の息子がおりますが、こういう戦争をまったく知らない世代の子どもたちに正確な事実を伝えていくのはとても困難なことですが、やらなければならないという思いを改めて強く感じました。(東京 山本聖子)

あごろ拠点交流会議／3月31日に

あごろの各拠点交流会議は、3月31日(土)午後一時半から、ハあごろ事務局Vで行ないます。

4月1日(日)は新宿御苑でお花見を企画会議は桜の下で、というのはいかがでしょうか。

財政難のことです。ことしは旅費を支給しませんが、交通費の本を後ほど贈呈します。くわしいことは拠点の皆さんあてにお便りで。

(編集後記)

世界が音を立てて変わり始めた！それを年賀状にもひしひしと感じた新春でした。

さあ金権政治の壁を崩そう！(R) '69年は沖縄、'79年はインド、'89年は東京で除夜の鐘を聴きました。激動の90年代はしばらく東京で旅を続けます。

胸にしみ入る年賀状の数々、どんなにか私を励ましてくれたことか。ただただ感謝しています。(大) 出すのはイヤでも、もううと嬉し

いものなァんだ？ 「年賀状とお年玉」なんて言ったら怒られるかな。でも皆さんからのお葉書は、まさに私にとっての「お年玉」でした！(マ)